

平成3年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|----------------|------|
| 科目番号 | 2101 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 成田清文 |
| 科目名 | 倫理学 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療秘書 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 現代社会における様々な問題について、倫理的に考え、自ら判断できるようにする。</p> <p>○テーマ 現代社会の直面する様々な倫理的課題・世界や日本の様々な思想や宗教を通して、どのように生きるべきかを考える。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>生命・環境・性役割などの現代社会の様々な問題を倫理的な側面から考える。 世界の様々な思想・哲学・宗教と、古代から現代に至る日本の思想・宗教を通して、日本人の倫理観を考える。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | オリエンテーション・倫理とは 授業で扱う現代の倫理的課題・世界の思想と宗教・日本の思想と宗教の概略を知ることにより、倫理とは何かについて考える。 | | | | | | | | |
| 2 | 生命倫理について 臓器移植・脳死・尊厳死・安楽死・インフォームドコンセントなどを理解することを通して、現在の医療における倫理について考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 3 | 環境倫理について 公害問題から世界規模の環境問題、特に温暖化問題への取り組みなどの学習を通して、環境倫理について考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 4 | 家族・性役割・ジェンダーについて 現代の家族・社会のあり方を、男女の性役割やジェンダーという視点、また性同一性障害や同性婚などを通して考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 5 | 情報社会と倫理について 情報技術の発達によって出現した高度情報社会における諸問題について、モラル・リテラシー・プライバシーなどの視点から考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 6 | 異文化理解と倫理について グローバル化が進む世界の中でどのように生きていくべきか、ナショナリズム・エスノセントリズム・多文化主義などについて学習することによって考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 7 | 青年期について 子どもから大人への過渡期である青年期について、アイデンティティ・発達段階・適応などの概念、あるいはフロイトの精神分析学の学習を通して考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 8 | 古代ギリシャ思想について ギリシャ神話とソクラテス・プラトン・アリストテレスの哲学を学習することによって、古代ギリシャ思想の意義について考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 9 | ユダヤ教・キリスト教・イスラームについて 欧米文化のバックボーンとなっているキリスト教とその母胎であるユダヤ教、さらにそれらの影響を受けて成立したイスラームについて考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 10 | 仏教について 仏教の開祖ブッダの思想とその後の仏教思想の展開について学ぶことを通して、現代の日本人につながるその思想の本質について考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 11 | 中国思想について 現在もなお私たち日本人の道徳観に影響を持つ中国思想について、儒家と道家の比較を通してその特質を考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 12 | 日本思想について(1) 古代から中世の日本思想の特質について、最澄や空海、そして鎌倉期の道元・親鸞・日蓮の思想を学ぶことによって考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 13 | 日本思想について(2) 近世から近代の日本思想の特質について、江戸期の儒学者と明治期の思想家の学習を通して考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 14 | 近代思想について ルネサンスから19世紀までの西洋近代思想・哲学から何人かの人物を取り上げ、その時代への影響について考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| 15 | 現代思想について 20世紀以降の西洋思想・哲学から何人かの人物を取り上げ学習することによって、現代の思想的課題について考える。 | | | | | | | 予習プリントを読む（授業前） | |
| テキスト | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 毎回、プリント資料を配布 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 提出したレポートによって評価する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|-------------|---------------------------------|------|
| 科目番号 | 2103 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 富士純子 |
| 科目名 | 国文学 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 郷土を代表する作家、太宰治の数編の中期作品に触れることにより、文学を読む楽しさを知る。</p> <p>テーマ 作者の人生や作品成立の背景・内容・文章に触れることにより、当時の人々の生き方を学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>テキスト・プリントを用いながら、太宰治の人生や、作品のあらすじ・内容・テーマの把握に努める。その中で、当時の人々のものの考え方・生き方に対する知識と理解を深める。</p> | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | 【受講受理】（授業計画）国文学の授業方針、近代文学の概要についての説明。 | | | | | | | テキストを購入する。 | |
| 2 | 【近代文学の外観】 文学史の時代区分、位置づけ。近代文学の胎動と成立・概観についての講義。 | | | | | | | プリント資料を読む | |
| 3 | 【太宰治の人生について】『ナイフを持つ前にダザイを読み!!』の中から「評伝太宰治」を読む。 | | | | | | | プリント資料を読み作者について知る。 | |
| 4 | " | | | | | | | " | |
| 5 | " | | | | | | | " | |
| 6 | 【作品の鑑賞・理解①】 作品 『ダズゲマイネ』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 7 | 【作品の鑑賞・理解】 作品 『満願』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 8 | 【作品の鑑賞・理解】 作品 『富嶽百景』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 9 | 『女生徒作品』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 10 | 『女生徒作品』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 11 | 『女生徒作品』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | 感想文を書き、提出する。 | |
| 12 | 【作品の鑑賞・理解】 作品『駆け込み訴え』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 13 | 【作品の鑑賞・理解】 作品『走れメロス』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 14 | 【作品の鑑賞・理解】 作品『東京八景』を読み、作品について講義をする。 | | | | | | | テキスト中の作品を読んでおく。 | |
| 15 | 【作品の鑑賞・理解】 作品『帰去来』・『故郷』を読み、太宰治についてのまとめのレポートを書く。 | | | | | | | 事前に最後の2作品を読み、「太宰治と津軽」について考えておく。 | |
| テキスト | 『走れメロス』 太宰治著 新潮文庫 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 『文豪ナビ太宰治』 新潮文庫編 新潮文庫 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 学習状況(30%)・課題レポート(70%)で、総合的に判断する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | テキストの作品は、事前に読み、指示された事項は調べて受講すること。レポート等の提出物は期日厳守のこと。 | | | | | | | | |

平成3年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|---|----|------------|------|-------------------|------|--------------------------------|---|------|
| 科目番号 | 2104 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 小野昇平 |
| 科目名 | 法学 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 保育士 | | 医療秘書 幼稚園 教諭 | | フードサイ エンティスト ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | 到達目標 法的なものの考え方を身につけ、具体的な問題について、様々な角度から考え、自分の言葉で他人に説明できるようになること。 テーマ 法的なものの考え方、論理的思考力 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | この講義では、様々な法の分野について「考えてもらう」ことを目的とする。ニュースなどでよく目にする重要な社会問題の多くは、簡単には答えが出せない問題であるが、これを「法」というレンズを通してみることで、答えのない問題について、より深く「考える」ことができるようになり、最終的には他者にわかりやすく説明することができるようになる。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | イントロダクション：ルールは何のためにあるのだろう？ としょかんライオン | | | | | | | 物語を予習 / 講義で考えた問題を復 | |
| 2 | イントロダクション：ルールを事実に当てはめてみよう 三匹のこぶた事件 | | | | | | | 物語を予習 / 講義で考えた問題を復 | |
| 3 | 法の背後にある正義：乙姫による浦島太郎殺害未遂事件 | | | | | | | 物語を予習 / 講義で考えた問題を復 | |
| 4 | 憲法：憲法には何が書いてあるのだろう？ | | | | | | | 憲法の条文を見てくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 5 | 憲法：選挙は何のため？ | | | | | | | 「選挙」について調べてくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 6 | 憲法：裁判の仕組みと裁判員制度 | | | | | | | 裁判員制度について調べてくる / 自分が裁判員になったらどうするか家族や友人と話し合う | |
| 7 | 憲法：人権が侵害されるとはどういうことだろう？ | | | | | | | 「人権」の種類について調べてくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 8 | 憲法 男女の平等 夫婦別姓問題 | | | | | | | 自分の名字はどうやって決まるか確認しておく / 講義で考えた問題を復習 | |
| 9 | 憲法 表現の自由とプライバシー 少年犯罪の報道について | | | | | | | 少年が起こした事件についてのニュースを見てくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 10 | 刑法：「犯罪」とはなんだろう？ サルカニ合戦事件 | | | | | | | 刑罰が何のためにあるか考えてくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 11 | 刑法：死刑は残虐か？ 死刑制度の存続意義 | | | | | | | 死刑制度について調べてくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 12 | 民法：約束は絶対に守らなければいけないのか？ | | | | | | | 「約束すること」の意味を考えてくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 13 | 民法：契約と債務不履行責任 | | | | | | | 「約束を破る」ことの意味を考えてくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 14 | 民法：不法行為と損害賠償 | | | | | | | 「不法行為」という言葉の意味を調べてくる / 講義で考えた問題を復習 | |
| 15 | まとめ：ルールは何のためにあるのだろう？ | | | | | | | 14回目までの講義内容を思い出しておく / ルールの意味を考え直す | |
| テキスト | 特になし | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 講義中に指示する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 毎回の講義の際のコメントペーパー：30% 学期末の筆記試験：70% | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 多少難しい用語が出てくるので、授業を聞いただけでわからなければ自分で調べること。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|-------------|-------------------------------------|------|
| 科目番号 | 2105 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 兼平拓道 |
| 科目名 | 経済学 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 グローバル経済の大きな潮流が家庭生活にどのような影響を与えるのかを分析し、将来への見通しを的確に立てられる能力を身に付ける。</p> <p>テーマ 私たちを取り巻く経済環境は時々刻々と変化している。そこでこの講義では、「今、何が起きているのか」をテーマに、経済学の基礎的な理解を深める。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 経済学の基本的知識である価格、インフレとデフレ、金利、株式、財政、為替、貿易などをわかりやすく解説する。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 経済学とは何か 経済学が、日常生活にどのように関わってくるのかについて考える。 | | | | | | | 授業前と授業後には、新聞や雑誌などの経済記事を読み、知識の定着を図る。 | |
| 2 | モノの値段はどう決まるのか 経済的基礎条件の分析に必要とされる、マーケットメカニズムを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 3 | 好況や不況はどう決まるのか インフレとデフレの仕組みについて学び、それぞれのメリットとデメリットを理解する。 | | | | | | | | |
| 4 | 景気変動はなぜ生じるのか 大戦後の経済史をふり返りながら、景気変動の仕組みについて学ぶ。 | | | | | | | | |
| 5 | 金融とは何か 金融市場における銀行の役割と企業の資金調達について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 6 | 金利はどう決まるのか 金融市場における金利決定メカニズムの仕組みを学び、金利上昇局面と金利低下局面の経済動向について決定する。 | | | | | | | | |
| 7 | 日銀は何をしているのか 日本銀行の仕組みを学び、金融政策が経済に与える影響を分析する。 | | | | | | | | |
| 8 | 株の仕組みはどうなっているのか 株式のインカムゲインとキャピタルゲインの考え方を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 9 | 政府と経済とはどんな関係があるのか 政府の財政政策が、経済の重要な調整機能となっていることを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 10 | 日本の財政と年金はどうなっているのか 日本の財政危機と年金危機について、小泉構造改革を例に検討する。 | | | | | | | | |
| 11 | 為替とは何か 円高と円安の仕組みを学び、我々の日常生活と関連づけて考える。 | | | | | | | | |
| 12 | TPPとは何か 自由貿易協定の仕組みを学び、TPP加盟後の経済成長を展望する。 | | | | | | | | |
| 13 | バブル経済とは何か バブル経済について、クレジット・クランチに焦点をあてて分析する。 | | | | | | | | |
| 14 | アベノミクスとは何か アベノミクスの仕組みを学び、今後の日本経済を展望する。 | | | | | | | | |
| 15 | まとめ 経済学の基本的知識と課題を総括する。 | | | | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 『週刊エコノミスト』（毎日新聞社） 『週刊東洋経済』（東洋経済新報社） | | | | | | | | |
| 評価方法 | 期末テスト70%、提出レポート30%の割合で総合評価する。 試験は定期試験期間内に実施する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 日頃から、新聞やテレビなどの経済ニュースに目を通しておくこと。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|-------------|------------------------------------|------|
| 科目番号 | 2106 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 西 敏郎 |
| 科目名 | 社会学 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 社会学を通じて、多様な視点、より深く考える力、そして自ら問題を発見できる力の獲得を目標としている。</p> <p>テーマ 基礎社会学から始まり、犯罪抑制の為の社会学の実践的な取り組みまでをテーマとする。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>一見、政治や経済、歴史などをみると、人間とは、そして人間社会とは何か理解できるように思える。確かにそうなのであるが、しかし、それらはすべて表面上の動きであり社会の動きの結果でしかない。本講義では、なぜ社会にそういう動きが起こるのか社会学的手法を用いて解釈する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 社会学を学ぶ意義：社会学とはどのような学問かということをも身近な事例を取り上げ理解する。 | | | | | | | デュルケムの『自殺論』を扱う。余裕があれば読んでおく | |
| 2 | 社会学の目的：社会学という学問の基本的な考え方、ものの捉え方、社会学史について理解する。 | | | | | | | “社会”“集団”“個人”という言葉からイメージできるものを考えておく | |
| 3 | 社会学の基礎：社会学を勉強するにあたって認識しておかなければならない基本的概念・用語を理解する。 | | | | | | | | |
| 4 | 社会学の基礎：個人と個人、個人と集団、集団と集団など、人々のつながりの科学である社会学を理解する。 | | | | | | | | |
| 5 | 社会学の基礎：価値や規範など、普段意識しないが私たちの外部に存在し、強制作用を持っている力について社会的視点から理解する。 | | | | | | | | |
| 6 | 社会学の基礎：人の心の働きを研究するという視点から、心理学と社会学の違い、また双方揃って理解できる事例などを取り上げる。 | | | | | | | | |
| 7 | 宗教社会学：人間の歴史・生活・思想に大きな影響力を持つ宗教について社会的視点から考察する(日本人の宗教観を中心に)。 | | | | | | | 宗教について自分なりに調べておく | |
| 8 | 宗教社会学：人間の歴史・生活・思想に大きな影響力を持つ宗教について社会的視点から考察する(ユダヤ教・キリスト教を中心に)。 | | | | | | | | |
| 9 | 宗教社会学：人間の歴史・生活・思想に大きな影響力を持つ宗教について社会的視点から考察する(キリスト教を中心に)。 | | | | | | | | |
| 10 | 宗教社会学：人間の歴史・生活・思想に大きな影響力を持つ宗教について社会的視点から考察する(イスラム教を中心に)。 | | | | | | | レポート提出「宗教社会学」について | |
| 11 | 犯罪社会学：社会的逸脱行為である犯罪とは何なのか、社会的視点から解説する。 | | | | | | | 道徳・犯罪・逸脱という言葉について調べておく | |
| 12 | 犯罪社会学：集団によって人々の逸脱行為の定義は異なる。それら人間集団における「よそ」と「うち」について解説する。 | | | | | | | | |
| 13 | 犯罪社会学：現在の社会で犯罪を抑制する三つの力、公式統制力と非公式統制力、準公式統制力について解説する。 | | | | | | | | |
| 14 | 犯罪社会学：犯罪に対する実践的な社会学の取り組み(「割れ窓理論」や「パノプチコンの原理」)について解説する。 | | | | | | | レポート提出「犯罪社会学」について | |
| 15 | 総括：今まで学んだものの総括を行ない、最新の研究や、理論を解説する。 | | | | | | | | |
| テキスト | 特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 特に使用しない。図書館等で関連図書を参考にして頂きたい。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 受講状況30% レポート提出70% | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 常に学ぶ姿勢を忘れず、講義内容に対して積極的に疑問を持ち、自らの理論を打ち立てようとする姿勢を望む。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-----|------|-------|------|-------------|---------------|------|
| 科目番号 | 2108 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 柳町悟司 |
| 科目名 | 生物学 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 新聞やニュース等で取り上げられる生物学のテーマを理解できるようになる。</p> <p>テーマ 生命の誕生、遺伝子、人類の進化といった話題を通じて生物(特に人類)に関する知識を学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 新聞やニュースの記事で扱われる生物学のテーマを通して生物(特に人類)に関する知識を深める。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习(授業前・授業後) | |
| 1 | ガイダンス:授業の進め方に関する説明 | | | | | | | | |
| 2 | 生命の誕生:地球誕生から生物の誕生まで | | | | | | | | |
| 3 | 生命の進化:生物の進化,現在の状況(食物連鎖) | | | | | | | | |
| 4 | 人類の進化 :人類の誕生 | | | | | | | | |
| 5 | 人類の進化 :人類が他の動物と異なる点 | | | | | | | | |
| 6 | 人類の進化 :人類誕生から現代までの進化 | | | | | | | | |
| 7 | 人類の進化 :人類の未来について | | | | | | | | |
| 8 | 遺伝子 :遺伝子の役割(複製,転写,翻訳) | | | | | | | | |
| 9 | 遺伝子 :遺伝子の役割(遺伝子が性格に及ぼす影響) | | | | | | | | |
| 10 | 遺伝子 :遺伝子の役割(遺伝子操作) | | | | | | | | |
| 11 | 再生医学:幹細胞(ES細胞,iPS細胞等)を利用した再生医学 | | | | | | | | |
| 12 | 腸内細菌:腸内細菌が宿主に及ぼす影響 | | | | | | | | |
| 13 | 脳:脳の役割,脳死,性格について | | | | | | | | |
| 14 | 実験について:実験によって分かること,データの解析,有効数字等 | | | | | | | | |
| 15 | 生物学の歴史:生物学の特徴,生物学の発展の歴史 | | | | | | | | |
| テキスト | 指定しない(講義で配布するプリントを使用する) | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 羊土社 文系のための生命科学 ほか | | | | | | | | |
| 評価方法 | 試験期間に行う筆記試験(80%)と課題(レポート)(20%)の結果で評価する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 高校時の生物学を基礎とした内容ばかりではないが、理解するように努めてほしい | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|--|------|
| 科目番号 | 2109 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 兼平拓道 |
| 科目名 | キャリア基礎 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 社会人として必須となる心構えやビジネスコミュニケーション、ビジネス上の常識を理解する。</p> <p>テーマ 人生のキャリアづくりを考える。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>テキストや視聴覚教材を活用し、社会人として生きていくための基礎知識を学習し、ビジネス現場で経験のあるゲストスピーカーを招きながら、多面的に理解を進めていく学修プログラム。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | オリエンテーション キャリアとは何か？ | | | | | | | <p>授業後、各単元の課題の提出に取り組みます。</p> <p>授業前、各単元に該当する箇所を『就活ガイドブック2020』で予習する</p> <p>授業後、小論文と作文(小テスト)に備える</p> | |
| 2 | 今までの自分を振り返ろう | | | | | | | | |
| 3 | 自分の強みを知る | | | | | | | | |
| 4 | 自己紹介文を書く | | | | | | | | |
| 5 | 自分の価値観を知る | | | | | | | | |
| 6 | なりたい自分を探す | | | | | | | | |
| 7 | キャンパスライフデザイン 学校生活の目標を確認してみる | | | | | | | | |
| 8 | 社会人として働くとはどんなことなのか（外部講師） | | | | | | | | |
| 9 | 就職活動のアプローチと求人票の見方 | | | | | | | | |
| 10 | 履歴書の基本 | | | | | | | | |
| 11 | 自己PRの基本 | | | | | | | | |
| 12 | 志望動機の基本 | | | | | | | | |
| 13 | 就職活動のマナー 電話・Eメール手紙 | | | | | | | | |
| 14 | 小論文と作文の書き方 | | | | | | | | |
| 15 | 小論文と作文(小テスト) | | | | | | | | |
| テキスト | 『就活ガイドブック2020』本学が作成した冊子 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じて資料を用意する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 課題の提出(70%) 小テスト(30%) | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 社会に広く目を向けながら、受講すること。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|----------------|----|------|
| 科目番号 | 2110 | 単位 | 1 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 島内智秋 |
| 科目名 | 暮らしと学び | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 暮らしや学びに必要な情報提供や各回のテーマについて学び、調べたり深く考えたりする楽しさを知る。 教育理念「教育即生活」について主体的にアプローチする。</p> <p>テーマ 教育理念「教育即生活」を軸とした暮らしの中の学び</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 暮らしや学びに必要な情報について学び、調べたり考えたりする。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | | |
| 1 | オリエンテーション 短大で学ぶことについて | | | | | | 『学生便覧』を持参すること | | |
| 2 | 教育即生活について | | | | | | 『柴田やす伝』を持参すること | | |
| 3 | 進路の決定と偶然の計画について | | | | | | | | |
| 4 | 情報社会に着目した暮らしと学び | | | | | | | | |
| 5 | 女性の品格を考える | | | | | | | | |
| 6 | 大人になること、社会に出ることを考える | | | | | | | | |
| 7 | 暮らしの中の所作の意味を考える | | | | | | | | |
| 8 | 家族に関する暮らしと学び（結婚を考える） | | | | | | | | |
| 9 | 家族に関する暮らしと学び（子育てについて考える） | | | | | | | | |
| 10 | 家族に関する暮らしと学び（子ども観・仕事・食・住まいについて考える） | | | | | | | | |
| 11 | 家族に関する暮らしと学び（生活習慣・生活リズムについて考える） | | | | | | | | |
| 12 | 生命の繋がりについて(ヒト・動物・植物など) | | | | | | | | |
| 13 | 日本人の暮らしの変化について考える | | | | | | | | |
| 14 | 校訓から見える暮らしと学び | | | | | | | | |
| 15 | 暮らしと学びのまとめ レポート作成 | | | | | | | | |
| テキスト | 特に使用しない | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 『柴田やす伝』 他、各テーマごとに書籍の紹介をする | | | | | | | | |
| 評価方法 | 提出されたレポート(70%)・自主学习(30%)により評価する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 毎回の予習・復習カードの提出をすること。講義から興味を持ったことを更に調べたり考えたりすること。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------|---|----|-----|------|-----------|------|-----------------|----------------------|------|
| 科目番号 | 2111 | 単位 | 1 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 西 敏郎 |
| 科目名 | 津軽を探る | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標： 弘前を中心とした津軽地域の特色を知り、そこから地域の問題について自ら考える事ができるようになる。</p> <p>テーマ： 津軽の歴史・地理・文化・観光・産業・農業等に、主体的・能動的に係わる。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 弘前を中心とした津軽について、各方面の専門家をゲストスピーカーとしてオムニバスで招き、知見を広める。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | オリエンテーション:この講義の意義(「津軽を探る」とは) | | | | | | | | |
| 2 | 津軽の歴史と地理:津軽地域の歴史的背景や成り立ちを解説する。 | | | | | | | | |
| 3 | 弘前の伝統工芸:津軽塗、こぎん刺し、ブナコ、あけび蔓細工など津軽の伝統工芸について解説する。 | | | | | | | | |
| 4 | 津軽の温泉文化:弘前の温泉について解説する。 | | | | | | | | |
| 5 | 津軽の楽器:津軽の伝統楽器「津軽三味線」について解説する。 | | | | | | | | |
| 6 | 津軽の自然 :世界遺産である白神山地等を有する津軽地域の自然について解説する。 | | | | | | | | |
| 7 | 津軽と文学:太宰治・寺山修司・葛西善蔵など、津軽文学者の作品と特徴を解説する。 | | | | | | | | |
| 8 | 弘前の言葉(津軽弁):津軽の言葉(津軽弁)について理解を深める。 | | | | | | | | |
| 9 | 津軽の自然 :津軽の自然そのものを生業としてきたマタギ文化について解説する。 | | | | | | | | |
| 10 | 弘前の観光と物産 :観光都市である弘前の四大まつりについて解説する。 | | | | | | | | |
| 11 | 弘前の観光と物産 :観光都市である弘前の四大まつりについて解説する。 | | | | | | | | |
| 12 | 津軽と音楽:津軽民謡、昔っこ(昔話)などについて解説する。 | | | | | | | | |
| 13 | 津軽の食材と食文化:津軽の食材と食文化について解説する。 | | | | | | | | |
| 14 | 弘前の建築:弘前の伝統的建築物について解説する。 | | | | | | | | |
| 15 | 総括:これまでの内容を踏まえて総合的に弘前を理解する(津軽の魅力を語る)。 | | | | | | | これまでの内容を踏まえ、レポートの提出。 | |
| テキスト | 特に使用しない。 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 特に使用しない。図書館等で関連図書を参考にしていきたい。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | レポート提出等100% | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 常に学ぶ姿勢を忘れず、積極的に質問する姿勢を求める。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|-------------|---|-------|
| 科目番号 | 2131 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 大瀬恵理子 |
| 科目名 | 英語(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 保育現場で必要とされる基本的英語運用力及び音読による表現力を習得する。</p> <p>テーマ 「保育園の日の流れや1年の流れ」に即した様々な場面で想定される保育者と子ども・保護者間の対話や文書作成などの英語表現を学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育園の具体的な場面を描く英文の読解、及び対話・リスニング・ライティングなど練習問題を通して総合的な英語運用力の習得を図る。また保育現場で活用可能な英語の絵本や遊び歌を学び、英語特有の音とリズムを習得する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | オリエンテーション（テキストの内容を理解し、英語の遊び歌について知る） | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 2 | Chapter 1 The School Year Begins (新学期・園の人々・園舎などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 3 | Chapter 2 Arrival (登園・家族などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 4 | Chapter 3 Playing in the Classroom (室内遊び、病気などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 5 | Chapter 4 In the Sandbox (外遊び、遊具などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 単語ミニテスト (Chapter 1～3) 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 6 | Chapter 5 In the Playground (けんか・集団遊びに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 7 | Chapter 6 Lunchtime (昼食・献立表の書き方に関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 8 | Chapter 7 Changing Clothes and Story Time (衣類・持ち物に関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 9 | Chapter 8 Nap Time (トイレ・お昼寝などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 単語ミニテスト (Chapter 4,5) 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 10 | Let's sing English songs and read picture books! (英語の絵本や遊び歌の活用方法について学ぶ) | | | | | | | 配布プリントの復習をすること。 | |
| 11 | Chapter 9 Blowing Bubbles (病気・身体の名前などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 12 | Chapter 10 A Sick Child (緊急連絡などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 単語ミニテスト (Chapter 6～8) 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 13 | 前期の既習事項について確認・復習する。 | | | | | | | 配布プリントの復習をすること。 | |
| 14 | Movies in the Children's Culture(1) (「才能教育」をテーマとした映画を鑑賞し、子どもの可能性について考える) | | | | | | | 着眼点に添って考えをまとめること。 | |
| 15 | Movies in the Children's Culture(2) (映画鑑賞の着眼点に従ってレポートを作成する) | | | | | | | 着眼点に添って考えをまとめること。 | |
| テキスト | 新・保育の英語(三修社) | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | テキストに即した練習プリントや資料などを適宜作成して配布する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験を80%、単語ミニテストを10%、レポート課題を10%として総合評価を行う。 試験は定期試験期間内に実施する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | テキスト音声ダウンロードを利用した音読練習、内容概略の把握・練習問題などの予習及び復習を欠かさぬこと。英和辞書(電子辞書もOK)を持参のこと。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-----|------|----------------------------|------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------|
| 科目番号 | 2131 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 大瀬恵理子 |
| 科目名 | 英語(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 保育現場で必要とされる基本的英語運用力及び音読による表現力を習得する。</p> <p>テーマ 「保育園の1日の流れや1年の流れ」に即した様々な場面で想定される保育者と子ども・保護者間の対話や文書作成などの英語表現を学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育園の具体的な場面を描く英文の読解、及び対話・リスニング・ライティングなど練習問題を通して総合的な英語運用力の習得を図る。また保育現場で活用可能な英語の絵本や遊び歌を学び、英語特有の音とリズムを習得する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | Chapter 11 Preparation for the Sports Day (行事の案内状、電話連絡に関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 2 | Chapter 12 The Sports Day (運動会や競技動作に関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 3 | Chapter 13 Going for a Walk (地図を利用した道案内に関わる英語表現を概観する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 4 | Chapter 14 Discovering Autumn (1) (地図を利用した道案内に関わる英語表現を習得する) | | | | 単語ミニテスト (Chapter 11～13) | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | | |
| 5 | Chapter 14 Discovering Autumn (2) (地図を利用した道案内に関わる英語応用表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 6 | Chapter 15 Drawing & Letter Writing (礼状、ハガキなどの英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 7 | Chapter 18 School Diary (連絡帳、乳児への接し方に関わる英語表現を習得する) | | | | 単語ミニテスト (Chapter 14～15) | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | | |
| 8 | Let's sing English songs and read picture books (英語遊び歌と絵本の活用について学ぶ) | | | | | | | 配布プリントの復習をすること。 | |
| 9 | Movies in Christmas (1) (季節に関連した絵本と映画鑑賞を通して英語圏の文化を理解する) | | | | | | | 着眼点に添って考えをまとめること。 | |
| 10 | Movies in Christmas (2) (映画鑑賞の着眼点に従ってレポートを作成する) | | | | | | | 着眼点に添って考えをまとめること。 | |
| 11 | Chapter 16 A Snowy Day (工作手順などに関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 12 | Chapter 17 Leaving for Home (日時に関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 13 | Chapter 19 Bean-Throwing Day (1) (園行事に関わる英語表現を習得する) | | | | 単語ミニテスト (Chapter 16～18) | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | | |
| 14 | Chapter 19 Bean-Throwing Day (2) (家庭調査に関わる英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| 15 | Chapter 20 With Thanks for a Wonderful School Year (園だよりの英語表現を習得する) | | | | | | | 音読及び内容概略把握の予習、また配布プリントによる復習を行うこと。 | |
| テキスト | 新・保育の英語(三修社) | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | テキストに即した練習プリントや資料などを適宜作成して配布する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験を80%、単語ミニテストを10%、レポート課題を10%として総合評価を行う。 試験は定期試験期間内に実施する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | テキスト音声ダウンロードを利用した音読練習、内容概略の把握・練習問題などの予習及び復習を欠かさぬこと。英和辞書(電子辞書もOK)を持参のこと。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|---|----|------|
| 科目番号 | 2141 | 単位 | 1 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 佐藤睦子 |
| 科目名 | 保健体育 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 個人および社会における心身の健康や安全について関心・理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を養う。</p> <p>テーマ 健康でこころ豊かな生涯を送るために、青年期に必要なことは何かを共に考える。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>身近にある健康問題を取り上げ、受講者自身がそれらに興味・関心を持ち、自ら考えることで、それぞれのライフスタイルに合う健康習慣及び運動習慣を探る。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | | |
| 1 | 健康とは現代の生活における運動の必要性 | | | | | | 資料プリントを整理し、ノートを作成する。授業後は毎回、ノートの整理をすること。 | | |
| 2 | 健康とは肥満と疾病（確認小テスト） | | | | | | | | |
| 3 | 健康とは有酸素性運動とレジスタンストレーニングの効果的な実践 | | | | | | | | |
| 4 | スポーツ障害 外科的スポーツ障害について | | | | | | | | |
| 5 | スポーツ障害 外科的スポーツ障害の予防（確認小テスト） | | | | | | | | |
| 6 | スポーツ障害 外科的スポーツ障害の応急手当（確認小テスト） | | | | | | | | |
| 7 | スポーツ障害 熱中症と水分補給 | | | | | | | | |
| 8 | スポーツの多様化と社会問題 スポーツにおける倫理観 | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | |
| テキスト | 使用しない | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じ資料プリントを配付する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験(80%)、授業中に実施する小テスト(20%)とする。 試験は定期試験期間内に実施する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 積極的に自分の意見を述べたり、意欲的な参加を期待する。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|---|----|------|
| 科目番号 | 2142 | 単位 | 1 | 授業形態 | 実技 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 佐藤睦子 |
| 科目名 | 体育実技 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 生涯スポーツの観点に立ち、心身の状態や目的に合ったトレーニングを計画・実施できる知識を身につける。さまざまな身体運動を通し、自身の健康の保持増進と体力増強に努めるとともに、コミュニケーション能力や協調性を養う。</p> <p>テーマ 仲間とのかかわりの中で社会的態度の育成を図りながら、からだを動かすことの楽しさ、爽快感、達成感を体験し、健康の保持増進につながる生涯スポーツへの一助とする。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>既習経験のある球技のうち、バレーボール、ソフトバレーボールなど一般に親しまれている運動種目の実践、アダプテッドスポーツの実践を通して、青年期における体力・運動能力の維持向上やスポーツ理解を図る。また、学外のプールで集中指導(水泳)を実施する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習(授業前・授業後) | | |
| 1 | オリエンテーション(授業の概要・計画、健康調査の実施) | | | | | | 個々の運動制限や配慮すべき事項について把握したいため、事前に自分の既往症や気になることを伝えられるようしておく | | |
| 2 | 仲間づくり運動・体ほぐし運動 バレーボール 基礎技術の確認(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス) | | | | | | 毎回の授業後、痛めた部位や違和感があるかなど、自身の身体の状態を把握するとともに、次回の目標を明確にしておく。 | | |
| 3 | バレーボール 基礎技術の習得 (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス) | | | | | | | | |
| 4 | バレーボール 基礎技術の習得 (トス、スパイク、サーブ) 簡易ゲーム | | | | | | | | |
| 5 | バレーボール 基礎技術の習得 (パス、トス、スパイク、サーブ、レシーブ、ブロック) リーグ戦 | | | | | | | | |
| 6 | バレーボール 応用技術の習得 (サーブレシーブフォーメーション、シートレシーブ) リーグ戦 | | | | | | | | |
| 7 | バレーボール 応用技術の習得 (コンビネーションプレー、カバリング) リーグ戦 | | | | | | | | |
| 8 | バレーボール 技術確認・まとめ | | | | | | | | |
| 9 | ソフトバレーボール 攻撃・守備のフォーメーション 学生運営のリーグ戦 | | | | | | | | |
| 10 | ソフトバレーボール 攻撃・守備のフォーメーション 学生運営のリーグ戦 | | | | | | | | |
| 11 | ソフトバレーボール 攻撃・守備のフォーメーション 学生運営のリーグ戦 | | | | | | | | |
| 12 | シットイングバレーボール アダプテッドスポーツを知る | | | | | | アダプテッドスポーツについて、予習をし、理解をした上で授業に臨むこと | | |
| 13 | シットイングバレーボール 試しのゲーム(動きの工夫、戦術) | | | | | | | | |
| 14 | シットイングバレーボール まとめ | | | | | | | | |
| 15 | 水泳(水遊び、水中運動、泳法など) | | | | | | 水着を用意しておくこと。(水泳帽は学校より貸与する) | | |
| テキスト | 使用しない | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じ資料を準備する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 技術点(50点)、平常点(50点)とする。平常点については、安全面や衛生面を考慮し、運動に適した服装が身につけているか、仲間とコミュニケーションをとり強調しているか、意欲・関心を持って取り組み、動きのコツを身につけようとしているか、の三つの観点から総合して評価する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 運動習慣の重要性を認識し、運動が苦手でも失敗してもよいので、積極的かつ意欲的な取り組みを期待する。 遅刻・欠席に関し、15分以上の遅刻は欠席とみなす。欠席した場合は、次回の授業までに必ず欠課届を提出済みであること。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|---|----|------|
| 科目番号 | 2142 | 単位 | 1 | 授業形態 | 実技 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 佐藤睦子 |
| 科目名 | 体育実技 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 生涯スポーツの観点に立ち、心身の状態や目的に合ったトレーニングを計画・実施できる知識を身につける。さまざまな身体運動を通し、自身の健康の保持増進と体力増強に努めるとともに、コミュニケーション能力や協調性を養う。</p> <p>テーマ 仲間とのかかわりの中で社会的態度の育成を図りながら、からだを動かすことの楽しさ、爽快感、達成感を体験し、健康の保持増進につながる生涯スポーツへの一助とする。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 既習経験のある球技のうち、バドミントン、卓球など一般に親しまれている軽スポーツ、バスケットボールの実践を通して、青年期における体力・運動能力の維持向上を図る。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | | |
| 1 | 選択種目(バドミントン・卓球) 基礎技術の習得(サービス、リターン、ラリー) 簡易ゲーム | | | | | | 毎回の授業後、痛めた部位や違和感があるかなど、自身の身体の状態を把握するとともに、次回の目標を明確にしておく。 | | |
| 2 | 選択種目(バドミントン・卓球) 応用技術の習得(ダブルスフォーメーション) ゲーム | | | | | | | | |
| 3 | 選択種目(バドミントン・卓球) 親善大会 | | | | | | | | |
| 4 | バスケットボール 基礎技術・個人技術の習得 (ボールコントロール、ドリブル、シュート) グルーピングのためのスキルテスト | | | | | | | | |
| 5 | バスケットボール 基礎技術・個人技術の習得 (パスアンドシュート、1対1の攻防、2対2の攻防) リーグ戦 | | | | | | | | |
| 6 | バスケットボール 基礎技術・関係プレーの習得 (リバウンド攻撃、2対1の攻防、3対2の攻防) リーグ戦 | | | | | | | | |
| 7 | バスケットボール 基礎技術・関係プレーの習得 (スクリーンプレー) リーグ戦 詰め | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | |
| テキスト | 使用しない | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じ資料を準備する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 技能点(50点)、平常点(50点)とする。平常点については、安全面や衛生面を考慮し、運動に適した服装が身についているか、仲間とコミュニケーションをとり協調しているか、意欲・関心を持って取り組み、動きのコツを身につけようとしているか、の三つの観点から総合して評価する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 運動習慣の重要性を認識し、積極的かつ意欲的に取り組むことを期待する。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|-----|---|-------|---|-------------|------|---|------|
| 科目番号 | 2201 | | 単位 | 2 | 授業形態 | 2 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 兼平友子 |
| 科目名 | 教育原理と教職論 | | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 教育における基礎的理念、教育思想、歴史的経緯において学ぶことで、これまでの教育の変遷について理解し、教育者になるための基本的な知識を習得する。また、教職の意義、教員に求められている役割、資質能力、職務内容にテーマ 教育に関する基礎を学び、教育観について自分なりの考えを持つことで、教職への意欲を高め、教育者にふさわしい心構えを育む。</p> | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>幼稚園教諭に必要な教育の基礎的な理念、教育思想、歴史的経緯、教員の職務の特質や意義についての知識を習得する。さらに、現代の教育課題について考察し、今日の学校の役割や教員に求められている資質能力について考えを深めていく。</p> | | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | 教育とは 教育の意義と目的、公教育の目的と教員の意義について。 | | | | | | | | 教育者に関するイメージをもって臨むこと。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 2 | 教育とは 人間の発達、家庭・地域・社会と教育との関連、教育と児童福祉との関連性、教員の特性（他の職業との比較を通して）について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 3 | 西欧の教育の歴史的変遷及び教育思想 西欧の教職観・子ども観の変遷、コムニス、ロクソル等々の教育思想・歴史的背景から、今日の教員に求められている役割について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 4 | 西欧の教育思想 主にペスタロッチー、フレーベル、デューイ、モンテッソーリ、シュタイナー等の教育思想・歴史的背景から、今日の教員に求められている役割について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 5 | 日本の教育の歴史的変遷 日本の教育の目的、子ども観・教職観の歴史的変遷から、今日の教員に求められている役割について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 6 | 日本の教育思想 倉橋惣三を中心とした日本における教育思想から、今日の教員に求められている役割について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 7 | 第7回：教育制度 日本及び諸外国の教育制度の変遷。教員という職業のあり方について、近代の日本の教育制度の変遷に沿って検討する。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 8 | 近代の教育制度 教育の基盤となる法規（教育基本法、学校教育法）及び、教員の身分と服務義務について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 9 | 現代の学校教育 教員の職務（学校の組織、運営、学級経営等）、教育実践の基礎理論、教育評価の持つ意味について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 10 | 現代の学校教育 教員の職務（生徒指導、公務分掌等）、教育実践の基礎理論について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 11 | 現代の学校教育 教員研修の意義と重要性について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 12 | 就学前教育 幼稚園教育要領の目的、基本的構造、改訂の基本的な考え方。保幼小連携について。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 13 | 現代の教育課題 現代の教育課題（生涯学習の基本理念および意義、特別支援教育）について考察し、学校が内外の専門家と連携、分担して対応する必要について考える。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 14 | 現代の教育課題：現代の教育課題（主に学校・家庭・地域社会の役割と連携、児童・生徒理解、国際化・情報化と教育等）について考察し、学校が内外の専門家と共にチームとして組織的に課題に対応することの重要性を理解する。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| 15 | 現代の教育課題 今日の教員に求められている資質能力について考察。 | | | | | | | | 講義前は教育に関する新聞やニュースに目を向けてくること。講義後復習を行い、分かったことをまとめること。 | |
| テキスト | 文部科学省「幼稚園教育要領 平成29年告示」 | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 「解説 教育六法2019」三省堂 教育小六法 2019年版、学陽書房 「教職の意義と教員の職務」三省堂 チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か、晃洋書房 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験(70%)、授業の中で課す小レポート(30%) | | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 講義後復習を行い、自分なりのノートを作っていくように心がけること。また、教育・保育に関する新聞、ニュース等に目を向け、自分なりの教育観を確立できるようになることが望ましい。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--|-----|---|-------|----|---------|----------------------------|-------------|-------|--|--|
| 科目番号 | 2202 | | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 佐々木典彰 | | |
| 科目名 | 教育心理学 | | | | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 栄養教諭 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | | | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 教育保育に関する心理学の基礎を習得し、その現場での活用例を具体的に述べる事ができる。</p> <p>テーマ 子どもの心理の基礎を学ぶ。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>子どもの心理の特徴を最新の研究例にふれながら学ぶ。随時、映像や心理テストも用いられる。自主学習は、授業後、次回小テストのための復習を行い、必要に応じて、質問や意見を授業HPに投稿する。</p> | | | | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習(授業後) | | | | |
| 1 | 「発達」とは | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 2 | 人間の生まれ方の特徴 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 3 | 乳児のさまざまな反応や行動 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 4 | 乳児の基本的な欲求 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 5 | 幼児のものの見方・考え方、言葉 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 6 | 子ども観、保育観と遊び | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 7 | 児童期以降の心理 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 8 | 虐待者の心理 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 9 | 発達障害の特徴 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 10 | 親の障害受容について | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 11 | 記憶の仕組み | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 12 | 子どもの行動が変わるきっかけ | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 13 | 子どものやる気を高めるポイント | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 14 | 子どもへの上手な教え方 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 15 | 振り返りとまとめ | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 毎回プリント配布 | | | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 随時紹介 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 小テスト(42%)およびレポート課題(58%)の合計点(100点満点)を最終成績とする。 | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 小テストは、欠席・遅刻した場合、原則受けられない。 (特別の理由がある場合は相談すること) | | | | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--|-----|---|-----------|----|-----------------|------|-------------------|----------------|
| 科目番号 | 2207 | | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 小林由美子 福土亜友子 |
| 科目名 | 音楽(1) | | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 音楽表現の基礎となる知識と技能を習得する</p> <p>テーマ 保育の現場で活用できる「幼児の歌」の弾き歌いができるようになる(目標15曲) すでにピアノ学習歴のある人は、弾き歌いのレパートリーを数多く作る</p> | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 各自に応じた個人指導により、担当教師と共に課題をマスターする | | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学習(授業前・授業後) | |
| 1 | 授業を始めるにあたってのガイダンス、担当教員紹介を行う | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 2 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 3 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 4 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 5 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 6 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 7 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 8 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 9 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 10 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 11 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 12 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 13 | 前期15曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 14 | 前期試験曲の復習をする。 | | | | | | | | よく復習し、試験に備える | |
| 15 | 前期試験曲の暗譜を確認する。 | | | | | | | | よく復習し、試験に備える | |
| テキスト | 「弾き歌いー簡易楽譜集」(小林・福土編集) 幼児のための音楽教育(教育芸術社) | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 期末に演奏形式で弾く試験をし、日頃の受講態度や弾き歌いの進捗状況も合わせて、指導教員6人で総合評価をする。 | | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 受講したことを理解し、次の授業日までに課題を完成するよう努力する。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--|-----|---|-----------|----|-----------------|------|-------------------|----------------|
| 科目番号 | 2207 | | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 小林由美子 福土亜友子 |
| 科目名 | 音楽(1) | | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 音楽表現の基礎となる知識と技能を習得する</p> <p>テーマ 保育の現場で活用できる「幼児の歌」の弾き歌いができるようになる(目標20曲) すでにピアノ学習歴のある人は、弾き歌いのレパートリーを数多く作る</p> | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 各自に応じた個人指導により、担当教師と共に課題をマスターする | | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学習(授業前・授業後) | |
| 1 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 2 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 3 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 4 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 5 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 6 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 7 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 8 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 9 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 10 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 11 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 12 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 13 | 後期20曲弾き歌いができるという到達目標に向かって選曲した歌を担当教師と共にマスターする (詳細については各担当教員の指示に従うこと) | | | | | | | | よく復習し、次に課題を練習しておく | |
| 14 | 後期試験曲の復習をする。 | | | | | | | | よく復習し、試験に備える | |
| 15 | 後期試験曲の暗譜を確認する。 | | | | | | | | よく復習し、試験に備える | |
| テキスト | 「弾き歌いー簡易楽譜集」(小林・福土編集) 幼児のための音楽教育(教育芸術社) | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 期末に演奏形式で弾く試験をし、日頃の受講態度や弾き歌いの進捗状況も合わせて、指導教員6人で総合評価をする。 | | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 受講したことを理解し、次の授業日までに課題を完成するよう努力する。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|-----|---|-------|----|--------|------|---|------|--|--|
| 科目番号 | 2208 | | 単位 | 2 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 葛西克行 | | |
| 科目名 | 図画工作(1) | | | | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 栄養教諭 | | 医療 | | フードサイエティスト | | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビシッター | | | | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 幼児の造形活動に必要な様々な素材や道具に関する理解を深め、造形表現の基本的な知識や技能を習得する。</p> <p>テーマ 目的に沿った題材の構想と計画に関する実践的な教材研究。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 様々な材料を使った造形活動をもとに、グループ毎に話し合い、独自の題材を構想し、指導計画を作成する。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 造形表現の意義 | | | | | | | | 事前：「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」の熟読。 | | | |
| 2 | 児童画の発達段階 | | | | | | | | 事前：「児童画のロゴス」の熟読。 事後：レポート課題「児童画の発達段階のまとめ」提出。 | | | |
| 3 | 作品の見方・評価方法 | | | | | | | | 事後：レポート課題「よい作品とは」提出。 | | | |
| 4 | 段ボールを使った造形表現(1) 課題演習 | | | | | | | | 事前：ダンボール(1m×1m)、木工ボンド、ダンボールカッター、絵の具、鋏、装飾に使えるものの準備。 | | | |
| 5 | 段ボールを使った造形表現(2) 課題演習 | | | | | | | | 事後：課題作品提出。 | | | |
| 6 | 段ボールを使った造形表現(3) 個人及びグループの計画書作成 | | | | | | | | 事前：ダンボールを使った造形活動のアイデアの熟思。 | | | |
| 7 | 段ボールを使った造形表現(4) グループ計画書の協議、試作、反省 | | | | | | | | 事後：個人、グループアイデアカード提出。 | | | |
| 8 | 木材を使った造形表現(1) 課題演習 | | | | | | | | 事前：木工ボンド、はさみ、画用紙の準備。 | | | |
| 9 | 木材を使った造形表現(2) 課題演習 | | | | | | | | 事後：課題作品提出。 | | | |
| 10 | 木材を使った造形表現(3) 個人及びグループの計画書作成 | | | | | | | | 事前：木材を使った造形活動のアイデアの熟思。 | | | |
| 11 | 木材を使った造形表現(4) グループ計画書の協議、試作、反省 | | | | | | | | 事後：個人、グループアイデアカード提出。 | | | |
| 12 | 空き缶を使った造形表現(1) 課題演習 | | | | | | | | 事前：空き缶(5個)、紙粘土(3袋)、ガムテープ、爪楊枝、綿棒、ビーズ、ほかに装飾に使えるものの準備。 | | | |
| 13 | 空き缶を使った造形表現(2) 課題演習 | | | | | | | | 事後：課題作品提出。 | | | |
| 14 | 空き缶を使った造形表現(3) 個人及びグループの計画書作成 | | | | | | | | 事前：空き缶を使った造形活動のアイデアの熟思。 | | | |
| 15 | 空き缶を使った造形表現(4) グループ計画書の協議、試作、反省 | | | | | | | | 事後：個人、グループアイデアカード提出。 | | | |
| テキスト | なし | | | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 幼稚園教育要領解説(フレーベル館)、保育所保育指針解説(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼児造形の基礎(萌文書林)、児童画のロゴス(勤草書房)、共通感覚論(岩波現代文庫)、裸の王様(角川文庫・新潮文庫) | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 課題作品及びレポート(70%)、授業への取り組み状況(30%) | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 履修者は授業ガイダンスを必ず履修すること。 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-----|------|-------|------|---------|---|-------------|
| 科目番号 | 2208 | 単位 | 2 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 葛西克行 |
| 科目名 | 図画工作(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 栄養教諭 | | 医療 | | フードサイエンティスト |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 幼児の造形活動に必要な様々な素材や道具に関する理解を深め、造形表現の基本的な知識や技能を習得する。</p> <p>テーマ 目的に沿った題材の構想と計画に関する実践的な教材研究。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 様々な材料を使った造形活動をもとに、グループ毎に話し合い、独自の題材を構想し、指導計画を作成する。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 布を使った造形表現(1) 課題演習 | | | | | | | 事前:ダンボール、端布、木工ボンド、はさみ、カッターの準備。 | |
| 2 | 布を使った造形表現(2) 課題演習 | | | | | | | 事後:課題作品提出。 | |
| 3 | 布を使った造形表現(3) 個人及びグループの計画書作成 | | | | | | | 事前:布を使った造形活動のアイデアの熟思。 | |
| 4 | 布を使った造形表現(4) グループ計画書の協議、試作、反省 | | | | | | | 事後:個人、グループアイデアカード提出。 | |
| 5 | 平面技法の基本(1) 課題演習 | | | | | | | 事前:画用紙、絵の具、新聞紙の準備 | |
| 6 | 平面技法の基本(2) 課題演習 | | | | | | | 事前:画用紙、絵の具、ストロー、クリアファイル(3枚)の準備。 | |
| 7 | 平面技法の応用(曲のイメージの造形表現)(1) 課題演習 | | | | | | | 事前:画鋸、鋏、カッター、のりの準備。 | |
| 8 | 平面技法の応用(曲のイメージの造形表現)(2) 課題演習 | | | | | | | 事後:課題作品提出。 | |
| 9 | 平面技法の応用(曲のイメージの造形表現)(3) 個人計画書作成、試作 | | | | | | | 事前:平面技法を使った造形活動のアイデアの熟思。 事後:個人アイデアカード提出。 | |
| 10 | 壁面の装飾(1) 共同制作の意義、グループ協議、課題演習 | | | | | | | 事前:ガムテープ、カッター、絵の具、装飾に使えるものの準備。 | |
| 11 | 壁面の装飾(2) 課題演習 | | | | | | | 事後:課題作品提出。 | |
| 12 | 壁面の装飾(3) 個人及びグループの計画書作成 | | | | | | | 事前:壁面装飾のアイデアの熟思。 | |
| 13 | 壁面の装飾(4) グループ計画書の協議、試作、反省 | | | | | | | 事後:個人、グループアイデアカード提出。 | |
| 14 | 自由課題(1) 個人及びグループの計画書作成 | | | | | | | 事前:造形活動のアイデアの熟思 | |
| 15 | 自由課題(2) グループ計画書の協議、試作、反省 | | | | | | | 事後:個人、グループアイデアカード提出。 | |
| テキスト | なし | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 幼稚園教育要領解説(フレーベル館)、保育所保育指針解説(フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)、幼児造形の基礎(萌文書林) | | | | | | | | |
| 評価方法 | 課題作品及びレポート(70%)、授業への取り組み状況(30%) | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|-------------------|------|
| 科目番号 | 2209 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 田中 恵 |
| 科目名 | 体育(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 幼児の運動遊びについて理解を深め、身体表現活動に関する知識・技術を身につける。</p> <p>テーマ 幼児の運動遊びを実際に体験しながら学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>乳幼児の身体発育や運動能力の発達を広義的に理解しながら、さまざまな運動遊びが子どもの身体発育・発達にどれだけ意義深いものであるかを知る。また、実際に運動遊びを幅広く体験することによって、遊びのもつ楽しさや喜びを感じながら身体運動に関する基本的な知識や技術を学習する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | 講義内容を把握し、幼児期における運動遊びの必要性を学ぶ。 (基本ステップは、毎回継続的に実施し、身体表現の技能を身につける。) | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 2 | (幼児体操) 幼児向けに創作された体操について学ぶ。 | | | | | | | 幼児体操の動きを確認する。 | |
| 3 | 歩く・走る・跳ぶなどの基本動作をリズムに合わせて動く。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 4 | 基本動作の応用 基本動作にジャンケンを加えて、発展させた遊びを体験する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 5 | 基本動作の応用 投げる・蹴るなどの基本動作を中心に的当て・的入れ遊びを体験する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 6 | リズム表現 基本となるステップを用いて、音楽に合わせて自由に表現をする。 | | | | | | | 身体表現の動きを考える。 | |
| 7 | リズム表現 基本となるステップを用いて、音楽に合わせて自由に表現をする。 | | | | | | | 身体表現の動きを考える。 | |
| 8 | リズム表現 タンバリン・鈴などを用いて、音楽に合わせて表現をする。 | | | | | | | 身体表現の動きを考える。 | |
| 9 | 表現遊び 共通の題材を基にグループごとにオリジナルの動きや隊形を考える。 | | | | | | | 身体表現の動きを考える。 | |
| 10 | 簡単にできる鬼遊びやゲーム遊びを体験する。 | | | | | | | 鬼遊びを調べる。 | |
| 11 | わらべうたを用いた遊びを体験する。 | | | | | | | わらべうた遊びを調べる。 | |
| 12 | (フォークダンス) 幼児向けのフォークダンスを体験する。用語を理解しながら指導法を学習する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 13 | さまざまな音やリズムに合わせて身体表現をする。 | | | | | | | リズムに合わせた動きの確認をする。 | |
| 14 | 水遊びについて実践的に学ぶ。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 15 | これまでの学習を振り返る。(理論・実技) | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| テキスト | 『幼児の楽しい運動学習』 不昧堂出版 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じて資料を配付する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期的に動きの習得状況を確認して評価する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 講義内容はノートにまとめておくこと。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|-------------------|------|
| 科目番号 | 2209 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 田中 恵 |
| 科目名 | 体育(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 幼児の運動遊びについて理解を深め身体表現活動に関する知識・技術を身につける。</p> <p>テーマ 幼児の運動遊びを実際に体験しながら学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>乳幼児の身体発育や運動能力の発達を広義的に理解しながら、さまざまな運動遊びが子どもの身体発育・発達にどれだけ意義深いものであるかを知る。また、実際に運動遊びを幅広く体験することによって、遊びのもつ楽しさや喜びを感じながら身体運動に関する基本的な知識や技術を学習する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | 小型遊具(ボール・フープ・縄)を使った遊びの特徴・内容を学ぶ。 (基本ステップは、前期同様に毎回継続的に実施し、身体表現の技能を身につける。) | | | | | | | 小型遊具を使った遊びを考える。 | |
| 2 | ボール遊び ボールを使った遊びの特徴や効果などを実践を通して理解し、指導法を学習する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 3 | ボール遊び ボールを使った基本動作を応用させて遊びを体験する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 4 | ボール遊び など 簡単なルールを用いたボールゲームを行う。(転がしドッジボール・ドッジボール) | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 5 | フープ遊び フープを使った遊びの特徴や効果などを実践を通して理解し、指導法を学習する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 6 | フープ遊び フープを使った基本動作を応用させて遊びを体験する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 7 | フープ遊び 簡単なルールを用いたフープゲームを行う。(カラーバスケット・陣取りなど) | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 8 | 縄遊び 縄を使った遊びの特徴や効果などを実践を通して理解し、指導法を学習する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 9 | 縄遊び 長縄を使った遊びを体験する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 10 | 縄遊び 短縄と長縄を使った遊びを体験する。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 11 | 障害走 子どもの年齢に合った障害走の内容を学ぶ。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 12 | 障害走 子どもの年齢に合った障害走の内容を学ぶ。 | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 13 | 自然と地形を活かした遊び(雪を利用した遊びを体験する) 天候不良の場合は理論で行う | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| 14 | さまざまな音やリズムに合わせて身体表現をする。 | | | | | | | リズムに合わせた動きの確認をする。 | |
| 15 | これまでの学習を振り返る。(理論・実技) | | | | | | | 講義内容をノートにまとめる。 | |
| テキスト | 『幼児の楽しい運動学習』 不味堂出版 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じて資料を配付する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期的に動きの習得状況を確認して評価する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 講義内容はノートにまとめておくこと。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------|---|----|-----|------|-----------|------|-----------------|--|------|
| 科目番号 | 2213 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 小山尊徳 |
| 科目名 | 情報技術 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 自分のイメージした文書を様々な情報機器・ソフトウェアを活用しながら自由に作成できるようになる。 インターネット上のサービスを活用し、情報収集・情報発信ができるようになる。</p> <p>テーマ 情報機器を活用し、相手に対する的確に情報を伝えるにはどのような知識と技術が必要かを学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>情報を適切に表現・発信するための知識を養い、情報機器（コンピュータおよび周辺機器）の操作およびアプリケーションソフトウェアを活用した文書作成・情報伝達などの技術を学びます。 ソフトウェア操作は、日本情報処理検定協会主催日本語ワープロ検定1級・文書デザイン検定2級相当及びペンタブレットによるペイント描画の知識・技術の習得を想定した内容です。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 学内ネットワークシステムの利用方法について outlook サイト yammer onedrive office onlineの基本的操作と活用演習 | | | | | | | | |
| 2 | 講義概要・コンピュータ実習室利用の留意事項を説明 習熟度アンケートの実施 | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 3 | ワープロソフトの基本的な機能説明と文書作成に係わる全般的な機能 (ページの設定・書式設定・印刷など)について | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 4 | ワープロソフトの基本的な機能説明と文書作成に係わる全般的な機能 (表の作成・結合・分割・罫線修飾など)について | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 5 | オートシェイプ・図形描画機能を利用した地図の作成 | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 6 | DTPによる名刺の制作方法と情報デザイン | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 7 | タイピングテスト 画像を扱う上で必要となる基礎知識の理解 画像編集ソフトウェアの基本操作について | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 8 | 総合課題1A オジナルのビジネス文書を作成する1(企画) | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 9 | 総合課題1B オジナルのビジネス文書を作成する2(公文書制作) | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 10 | 総合課題1C オジナルのビジネス文書を作成する3(告知媒体制作) | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 11 | 演習 ペンタブレット操作を中心とした画像作成・加工の操作について1 | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 12 | 演習 ペンタブレット操作を中心とした画像作成・加工の操作について2 | | | | | | | | |
| 13 | 演習 ペンタブレット操作を中心とした画像作成・加工の操作について3 | | | | | | | | |
| 14 | DTPによる図たよりの制作方法・技術と例題 | | | | | | | 授業前：講義サイトのレジュメを確認 授業後：講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 15 | 修得した知識・技術を活用した文書作成技能テスト (文書デザイン検定2級程度の内容) | | | | | | | | |
| テキスト | 授業内容に応じて適宜資料を配布する | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 授業用Webサイトに適宜掲載する | | | | | | | | |
| 評価方法 | 総合課題・演習の提出状況および完成度(2題70%) 技能テスト(文書作成・タイピング)(30%) | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 目的意識を持って授業に臨んでください。Office365の授業用サイトに予習復習用の情報を掲載するので確認を怠らないこと。とくに欠席した際には次の授業前にサイトで欠席時の内容を補完しておくこと。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|------------------------------------|-----|---|-----------|----|-----------------|------|--|--|--|
| 科目番号 | 2213 | | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 小山尊徳 | |
| 科目名 | 情報技術 | | | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 自分のイメージした文書を様々な情報機器・ソフトウェアを活用しながら自由に作成できるようになる。 インターネット上のサービスを活用し、情報収集・情報発信ができるようになる。</p> <p>テーマ 情報機器を活用し、相手に対する的確に情報を伝えるにはどのような知識と技術が必要かを学ぶ。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>情報を適切に表現・受発信するための知識を養い、情報機器（コンピュータおよび周辺機器）の操作、アプリケーションソフトウェアを活用した文書作成・情報発信などの技術を学びます。ソフトウェア操作は、日本情報処理検定協会主催文書デザイン検定1級・プレゼンテーション試験2級相当および動画編集の知識・技術の習得を想定した内容です。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | | |
| 1 | 総合課題2 A | オリジナルの情報誌を企画する1(情報収集) | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 2 | 総合課題2 A | オリジナルの情報誌を企画する2(レイアウトシート作成) | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 3 | 総合課題2 B | オリジナルの情報誌を作成する1 (WordによるDTP) | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 4 | 総合課題2 B | オリジナルの情報誌を作成する2 (WordによるDTP) | | | | | | | | | |
| 5 | 総合課題2 B | オリジナルの情報誌を作成する3 (WordによるDTP) | | | | | | | | | |
| 6 | 総合課題2 B | オリジナルの情報誌を作成する4 (WordによるDTP) | | | | | | | | | |
| 7 | プレゼンテーションソフトの基本的な説明 スライド作成に関する全般的な機能(文字・画像・音声の扱いなど)について 効果的な表現(修飾やアニメーション機能)について | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | | |
| 8 | 総合課題3 A | 園児向けオリジナルスライド資料を考案する(ストーリーボード) | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 9 | 総合課題3 B | 園児向けオリジナルスライド資料を作成する1 (Powerpoint) | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | |
| 10 | 総合課題3 B | 園児向けオリジナルスライド資料を作成する2 (Powerpoint) | | | | | | | | | |
| 11 | 総合課題3 B | 園児向けオリジナルスライド資料を作成する3 (Powerpoint) | | | | | | | | | |
| 12 | 映像編集に関わる全般的な知識と技能について 総合課題3 C 園児向け映像コンテンツを作成する1(ムービーメーカー) | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | | |
| 13 | 総合課題3 C | 園児向け映像コンテンツを作成する2(ムービーメーカー) | | | | | | | | | |
| 14 | Office365活用演習・EXCEL Onlineでアンケート・サイトの作成 | | | | | | | | 授業前:講義サイトのレジュメを確認 授業後:講義サイトの参考動画を視聴 | | |
| 15 | Office365活用演習・EXCEL Onlineでアンケート・サイトの作成 授業のまとめとリフレクション | | | | | | | | | | |
| テキスト | 授業内容に応じて適宜資料を配布する | | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 授業用Webサイトに適宜掲載する | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 総合課題の提出状況および完成度(2題:70%) 定期試験(筆記)(30%) | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 目的意識を持って授業に臨んでください。Office365の授業用サイトに予習復習用の情報を掲載するので確認を怠らないこと。とくに欠席した際には次の授業前にサイトで欠席時の内容を補完しておくこと。 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-----|------|-------|------|-------------|---------------------|------|
| 科目番号 | 2223 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 島内智秋 |
| 科目名 | 保育原理(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 ・保育の本質や保育の原理、子どもの発達過程に適した保育や環境について理解する。</p> <p>テーマ ・保育士として基礎的知識を理解し、実践へつなげる力を養う。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育の基本である「保育の意義・目標・内容」「保育の原理」「子どもの遊びの意義」「子どもの発達特性」「保育所の健康・安全上の留意事項」などに関する学び、理解して身につけていく。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | オリエンテーション 保育の理念と概念 | | | | | | | 子どもの最善の利益とは何か考えてくる | |
| 2 | 保育の基本 保育対象としての子ども - なぜ子どもを保育するのか - | | | | | | | 子ども観について考えてくる | |
| 3 | 福祉としての保育 - なぜ保育所が必要なのか - | | | | | | | なぜ保育所が必要か考えてくる | |
| 4 | 保育所保育指針の考え方 - なぜ保育所は教科書を用いないのか 幼児の発達の特徴と保育 2歳児について | | | | | | | なぜ保育所は教科書を用いないのか考える | |
| 5 | 発達過程に応じた保育 - なぜ子どもの発達理解は大切なのか 幼児の発達の特徴と保育 3歳児について | | | | | | | なぜ子どもの発達を学ぶのか考える | |
| 6 | 保育方針と指導計画 幼児の発達の特徴と保育 4歳児について | | | | | | | 保育実践の成り立ちを考える | |
| 7 | 保育のねらいと内容・遊びの充実と保育士の援助 幼児の発達の特徴と保育 5歳児について | | | | | | | 子どもの遊びと保育者の援助を考える | |
| 8 | 遊びと環境構成・保育における指導の総合性 幼児の発達の特徴と保育 6歳児について | | | | | | | なぜ保育所に遊具があるのか考える | |
| 9 | 子ども観・保育観とともに成長する保育士・遊びにおける個と集団への配慮 | | | | | | | 保育者の記録と保育者の成長を考える | |
| 10 | 保育におけるPDCAサイクルとは何か・2日間実習で悩んだことやもっと知りたいことについて | | | | | | | 保育のPDCAサイクルを考える | |
| 11 | 保育の形態と保育士の役割・2日間実習で悩んだことやもっと知りたいことについて 保育内容と方法・乳幼児の発達の特徴と保育 6か月未満児について | | | | | | | 保育形態による保育士の役割を考える | |
| 12 | 保育内容と方法・乳幼児の発達の特徴と保育 6か月から1歳3か月未満児について 2日間実習で悩んだことやもっと知りたいことについて | | | | | | | この時期の子どもの発達を考える | |
| 13 | 保育内容と方法・乳幼児の発達の特徴と保育 1歳か月から2歳未満児について 2日間実習で悩んだことやもっと知りたいことについて | | | | | | | この時期の子どもの発達を考える | |
| 14 | 現在の保育を取り巻く状況について気になった記事から考える(グループで深めていく) 2日間実習で悩んだことやもっと知りたいことについて | | | | | | | 気になった保育の記事等を持ってくる | |
| 15 | 現在の保育をとりまく状況について(保育所・幼稚園・認定こども園・新制度について) | | | | | | | 保育をとりまく状況について考える | |
| テキスト | 『なぜからはじめる保育原理』池田隆英・上田敏文ほか編著 建帛社 『保育所保育指針解説書』厚生労働省(平成30年改訂版) | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 『保育原理』民秋言・河野利津子 北大路書房 『保育原理』天野珠路・北野幸子 中央出版 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 期末テスト(60%)・提出物(20%)・受講態度(20%)を合わせた総合評価を行う。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 実践につなげるようイメージし、発言したり質問したりして積極的な態度で臨んでほしい。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|--------------------------------|-----|
| 科目番号 | 2224 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 西敏郎 |
| 科目名 | 子ども家庭福祉(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標： 学生自身が児童家庭福祉を通じて、自ら考え、判断できる力の構築を目標としている。また保育に携わる者としての必要な知識、倫理観、保育観の修得を目指す。</p> <p>テーマ： 児童を取り巻く環境は日々変化している。その中で児童の位置付けや、時代と共に変化する児童家庭福祉問題について、過去・現在を比較し、理解を深める。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>身近な事例や各国の取り組みなどを資料に用いて、多角的に児童家庭福祉問題についてアプローチする。そこから時代とともに変化する児童の位置づけや社会的役割。さらに諸外国との比較によってわが国の児童家庭福祉観を考察する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 児童家庭福祉の理念と概念 : 児童福祉法にある児童家庭福祉の理念ついて解説する。 | | | | | | | | |
| 2 | 児童家庭福祉の理念と概念 : 事例などの実際の活動内容を参考に児童家庭福祉の概念について解説する。 | | | | | | | 現在の児童福祉問題を調べておく | |
| 3 | 児童家庭福祉の制度と法体系 : 児童家庭福祉を理解する上で必要な児童福祉法および日本国憲法を解説する。 | | | | | | | “児童福祉施設”という言葉からイメージできるものを考えておく | |
| 4 | 児童家庭福祉の制度と法体系 : 児童家庭福祉事業を実際に担う厚労省、福祉事務所、児童福祉施設などの役割・機能について理解する。 | | | | | | | | |
| 5 | 児童家庭福祉の制度と法体系 : 児童家庭福祉事業を実際に担う厚労省、福祉事務所、児童福祉施設などの役割・機能について理解する。 | | | | | | | レポート提出（「児童福祉施設について」） | |
| 6 | 児童の発達 : 児童はそれぞれの時期に特有の発達課題をもっている。その発達の概観を解説する（乳児期・乳幼児期を中心に）。 | | | | | | | | |
| 7 | 児童の発達 : 児童はそれぞれの時期に特有の発達課題をもっている。その発達の概観を解説する（学童期を中心に）。 | | | | | | | | |
| 8 | 児童の発達 : 児童はそれぞれの時期に特有の発達課題をもっている。その発達の概観を解説する（思春期を中心に）。 | | | | | | | | |
| 9 | 児童虐待 : 児童虐待発生のメカニズムと、その連鎖について解説する。 | | | | | | | | |
| 10 | 児童虐待 : 国際児童虐待常任委員会が定める児童虐待の定義を解説する。 | | | | | | | | |
| 11 | 児童虐待 : 児童の保護と児童相談所の対応について、実例をあげながら解説する。 | | | | | | | | |
| 12 | 児童虐待 : 児童虐待問題の先進国である欧米を日本と比較しながら、これからの児童虐待問題の解決策を考察する。 | | | | | | | レポート提出（「児童虐待」） | |
| 13 | 少子化問題 : 現在、日本は少子化が社会問題化している。そこで少子化が進むメカニズムとなぜ少子化が問題であるのかを解説する。 | | | | | | | | |
| 14 | 少子化問題 : 現在、日本は少子化が社会問題化している。そこで少子化問題を克服した、諸外国の少子化対策を解説する。 | | | | | | | | |
| 15 | 総括: いままでの講義内容をふまえ、時事問題も含めて総括をする。確認のためのテストを行う。 | | | | | | | 確認の為に小テストを行う。 | |
| テキスト | 特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 特に使用しない。図書館等で関連図書を参考にして頂きたい。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 試験(90%)・レポート課題(10%) 試験は定期試験期間内に実施する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 常に学ぶ姿勢を忘れず、講義内容に対して積極的に疑問を持ち、自らの理論を打ち立てよとする姿勢を望む。 | | | | | | | | |

平成3年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-----|------|-------|------|-------------|---------------|------|
| 科目番号 | 2225 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 佐藤優輝 |
| 科目名 | 社会的養護(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療秘書 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 社会的養護の意義、歴史の理解 権利擁護と支援者としての視点の理解 社会的養護の現状と課題の理解</p> <p>テーマ 新しい社会的養育ビジョン 権利擁護</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>テキストに沿いながら講義形式で社会的養護の全体像について理解を深める。 社会的養護の実践・現状について講義形式で理解を深める。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | 社会的養護とは何か | | | | | | | | |
| 2 | 社会的養護の歴史 | | | | | | | | |
| 3 | 社会的養護の現状 | | | | | | | | |
| 4 | 子どもの権利擁護 | | | | | | | | |
| 5 | 社会的養護の制度と法体系 | | | | | | | | |
| 6 | 社会的養護の仕組み | | | | | | | | |
| 7 | 社会的養護の領域(児童養護施設、児童心理治療施設、乳児院) | | | | | | | | |
| 8 | 社会的養護の領域(里親、ファミリーホーム) | | | | | | | | |
| 9 | 社会的養護に関わる専門職 | | | | | | | | |
| 10 | 支援者に求められる専門性 | | | | | | | | |
| 11 | 支援者に求められる倫理観と自己覚知 | | | | | | | | |
| 12 | 被措置児童虐待防止 | | | | | | | | |
| 13 | 地域との連携 | | | | | | | | |
| 14 | 施設の運営管理 | | | | | | | | |
| 15 | 社会的養護の課題と展望 | | | | | | | | |
| テキスト | 社会的養護(みらい×子どもの福祉ボックス) | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 受講姿勢50%、課題(レポート)50% | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | <p>社会的養護で学ぶ子どもを捉える視点は、すべての子どもをとらえる視点につながる。 講義形式ではあるが、学生との双方向的なやりとりの機会を多くしたいと考えているので、積極的に発言・質問し社会的養護についての理解を深めてほしい。</p> | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|-------------|-----------------------------------|------|
| 科目番号 | 2226 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 西 敏郎 |
| 科目名 | 社会福祉 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標： 社会福祉を通じて、学生自身が新しい視点や知識を獲得し、自ら考え、判断できる力の構築を目標としている。</p> <p>テーマ： 福祉施設は現代の日本に欠かせない施設であるにもかかわらず、一昔前まではその存在はなかった。そこで「社会福祉とは何か」というテーマを中心に講義する。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>人々の相互扶助機能の制度化である福祉だが、それらの持っている側面、そういった経緯に及んだ道筋などを現代の身近な事例を手掛かりに、また福祉先進国や福祉発展途上国の様子なども取り上げながら解説する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 社会福祉を学ぶ意義：社会福祉とはどのような学問か、身近な事例などをとりあげ理解し、学ぶ目的と意義を確認する。 | | | | | | | “社会福祉”という言葉からイメージできるものを考えておく。 | |
| 2 | 社会福祉の制度と法体系：社会福祉を学ぶにあたって必要な基礎知識、制度、法体系について理解する。 | | | | | | | | |
| 3 | 社会福祉の制度と法体系：社会福祉を学ぶにあたって必要な基礎知識、制度、法体系について理解する。映像資料も使用して、これまで学んだことの総括も行う。 | | | | | | | | |
| 4 | 福祉大国スウェーデンの考察：福祉先進国のメリット・デメリット、様々な諸問題を取り上げながら、理想の福祉とは何かを考察する。 | | | | | | | | |
| 5 | 福祉行政と実施機関：現代日本の福祉を実際に担う厚生労働省、福祉事務所などの役割・機能について理解する。 | | | | | | | “社会福祉施設”と言われて、イメージ | |
| 6 | 経済と福祉：福祉とは国家政策の一部である以上、国民の税金が投入される。そこで社会福祉を経済的側面から考察する。 | | | | | | | | |
| 7 | 行政と福祉：福祉とは国家政策の一部である。そこで社会福祉を行政的側面から考察する。 | | | | | | | | |
| 8 | 社会福祉の歴史：社会福祉という概念が登場する以前の人々の相互扶助機能(助け合い機能)について解説する。 | | | | | | | | |
| 9 | 社会福祉の歴史：産業革命後、家族の在り方は劇的に変化する、その当時の人々の相互扶助機能を解説する。 | | | | | | | | |
| 10 | 社会福祉の歴史：産業革命後、発達する都市化・産業化に対応した国の政策「制度化された相互扶助機能(=福祉)」を解説する。 | | | | | | | レポート提出(「社会福祉の変遷」) | |
| 11 | 幸福と福祉：便利な生活が幸せとは限らない。真に人間にとっての幸福とは何か、福祉とは何かを哲学的意見も取り上げながら考察する。 | | | | | | | | |
| 12 | 地方行政と福祉：青森県内における福祉の政策・事業を解説する。 | | | | | | | 青森県の福祉問題を調べておく。 (新聞をしっかり読んでおく) | |
| 13 | 地方行政と福祉：青森県内における福祉の政策・事業を解説する(弘前市を中心に)。 | | | | | | | | |
| 14 | 福祉の倫理：福祉において完璧な正解はない。そこで福祉に従事する者の基本的な姿勢、志、倫理について考察する。 | | | | | | | | |
| 15 | 総括：いままでの講義内容をふまえ、時事問題も含めて総括をする。 | | | | | | | 確認の為に小テストを行う。 | |
| テキスト | 特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 特に使用しない。図書館等で関連図書を参考にして頂きたい。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 試験(90%)・レポート課題(10%) 試験は定期試験期間内に実施する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 講義内容に対して積極的に疑問を持ち、自ら「理想の福祉」とは何かを考察しようとする姿勢を望む。 | | | | | | | | |

平成3年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|-----------------------------|-----|------|-------|------------------|----------------------------------|----|------|
| 科目番号 | 2227 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 松宮ゆり |
| 科目名 | 子どもの保健 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療秘書 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と子どもの身体的発育・発達と保健について理解する。子どもの健康状態とその把握の方法、疾病とその予防法、他職種間の連携・協働の下での適切な対応を理解する。</p> <p>テーマ 児個人や集団の心身における健康問題発生を、最小限度に抑え、また問題が発生した場合、対処できるように学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どもの保健と環境について理解し、子どもの疾病と適切な対応、事故防止及び健康安全管理の対応と技術を身につけ、心と身体の健康問題と地域保健活動について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | | |
| 1 | 第1章 子どもの心身の健康と保健 | 保健活動の意義と目的 | | | | | 保健活動について 保健活動で扱う範囲 | | |
| 2 | 第1章 子どもの心身の健康と保健 | 子どもの出生と母子保健の意義 | | | | | 胎児の発育と出生の過程 胎児の発育と出生に影響する因子 | | |
| 3 | 第1章 子どもの心身の健康 | 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 | | | | | 子どもの健康に関する時代の推移 現代社会における現状と課題 | | |
| 4 | 第2章 子どもの発育・発達と保健 | 子どもの身体発育と運動機能の発達 | | | | | 身体発育や発達に影響する要因 | | |
| 5 | 第2章 子どもの発育・発達と保健 | 生理機能の発達と生活習慣 | | | | | 子どもの生理機能の評価の仕方 | | |
| 6 | 第3章 地域における保健活動と子どもの虐待防止 | | | | | 健康支援活動と虐待防止の取り組み | | | |
| 7 | 第4章 子どもの(心身の)健康状態の観察と体調不良の把握 | | | | | 体調不良時の主な症状と評価、対応 | | | |
| 8 | 第5章 子どもの病気 | 子どもの免疫の発達と感染症の特徴 | | | | | 感染症の種類と特徴、感染経路 | | |
| 9 | 第5章 子どもの病気 | 感染症の予防および適切な対応 | | | | | 予防接種について | | |
| 10 | 第5章 子どもの病気 | 救急疾患の特徴と適切な対応 | | | | | 子どもの救急疾患の特徴と対応 | | |
| 11 | 第5章 子どもの病気 | 新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応 | | | | | 低出生体重児の定義と対応 | | |
| 12 | 第5章 子どもの病気 | アレルギー・疾患の特徴と適切な対応 | | | | | アレルギー・疾患の特徴と対応 | | |
| 13 | 第5章 子どもの病気 | 慢性疾患の特徴と適切な対応 | | | | | 慢性疾患を抱えている子どもの支援 | | |
| 14 | 第6章 保護者との情報共有と家族の支援 | | | | | 集団生活前健診・家族支援 | | | |
| 15 | 第7章 子どもの健康診断と関連機関との連携 | | | | | 健診を通じた関係機関との連携 | | | |
| テキスト | 『授業で現場で役立つ！ 子どもの保健テキスト』、小林美由紀 編著 森脇 浩一 編集協力、 診断と治療社 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 『乳児保育演習ブック』 松本峰雄監修 ミネルブア書房 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験(80%)、レポート課題等(20%)により総合評価する。試験は定期試験期間内に実施する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 各章のおさえておくポイントを整理し、振り返り問題を解きながら、理解を深めていく。 | | | | | | | | |

平成3年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|------------|------|---------------|------|-------------------------------|----|------|
| 科目番号 | 2228 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 松宮ゆり |
| 科目名 | 乳児保育(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 保育士 | | 医療秘書 幼稚園教諭 | | フードサイエンティスト ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 ・乳児保育の意義、目的と歴史の変遷及び役割、及び保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。・3歳児未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と運営体制について、職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。</p> <p>テーマ 乳幼児期は、人間として成長する基礎づくりとして重要な時期である。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>乳児保育の意義及び目的と役割を知り、乳児保育の現状と課題を把握し3歳児未満の発育・発達を踏まえた保育を理解し、乳児保育における連携・協働について学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | | |
| 1 | 第1章 乳児保育とは何か・マザリーズの特徴 乳児とは・乳児保育はどこで行われ、なぜ必要か | | | | | | 「乳児保育」は何歳児まで扱うか マザリ - ズの特徴 | | |
| 2 | 第2章 「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念 乳児保育の目標・3つの視点・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 | | | | | | 子どもの最善利益について | | |
| 3 | 第3章 乳児保育の歴史 乳児保育の始まり・諸外国における特徴的な保育・幼児教育の現状 | | | | | | 児童福祉施設とは | | |
| 4 | 第4章 乳児保育の基礎知識 1 乳幼児の心の発達理論・0～3歳児の発達の特徴、発達過程・自我の芽生え | | | | | | 自我の芽生えと自己統制力 自己肯定感の育みとその支援 | | |
| 5 | 第5章 乳児保育の基礎知識 2 乳児保育に関わるねらい及び内容・1歳～3歳児の保育、ねらい及び内容 | | | | | | 乳児保育のねらいとは | | |
| 6 | 第6章 乳児保育の基礎知識 3 保育の実施に関わる「配慮事項」、特別な配慮が必要な子どもへの支援 | | | | | | 感染症対策における観察ポイント | | |
| 7 | 第7章 保育所・認定子ども園における乳児保育 1 保育所とは・認定子ども園とは・乳児保育の物的環境、人的環境 | | | | | | 保育の担当制について | | |
| 8 | 第8章 保育所・認定子ども園における乳児保育 2 保育所・幼保連携型認定子ども園における生活活動 | | | | | | 子どもの育ちと保育内容について | | |
| 9 | 第9章 乳児院における乳児保育 乳児院とは・近年の状況・養育内容・原則、人的環境・入所背景と養育環境の問題等 | | | | | | ネグレクトについて | | |
| 10 | 第10章 家庭的保育等における乳児保育 家庭的保育事業とは・法規定・家庭的保育室における保育の特徴等 | | | | | | 家庭的保育事業の法規定 | | |
| 11 | 第11章 乳児保育が行われるほかの保育 「子ども・子育て支援制度」における保育施設の位置付け | | | | | | ベビーシッターについて | | |
| 12 | 第12章 子育て支援における乳児保育 保育所及び認定子ども園における子育て支援に関する基本・虐待予防 | | | | | | 地域子育て支援事業とは | | |
| 13 | 第13章 保護者とのパートナーシップ 1 保護者が置かれている環境・乳児保育における保護者支援 | | | | | | 家族形態の変化について | | |
| 14 | 第14章 保護者とのパートナーシップ 2 連絡帳、個人面談、保育相談、保育参加・参観、園便り・クラス便り・発達の遅れ | | | | | | 保護者との連携について | | |
| 15 | 第15章 職員間・地域の関係機関との連携・乳児保育の現状と課題 異職種、職員間、地域の関係機関との連携・乳児保育実践、人間形成の視点から | | | | | | 職員間の連携について | | |
| テキスト | 『乳児保育演習ブック』、松本 峰雄 監修・池田りな・才郷 眞弓・土屋 由・堀 科 著、ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 「保育所保育指針」平成29年告示・「保育所保育指針解説」平成30年3月 厚生労働省 編 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験80%、授業内活動10%、課題プリント10%を総合評価。試験は定期試験期間内に実施する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 各章のポイントを把握し、おさらい・課題プリントを行いながら理解を深めていく。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|-------------|---|-------|
| 科目番号 | 2230 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 福土亜友子 |
| 科目名 | 子どもと音楽 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 音楽の理論を学ぶことで、楽譜が理解できるようになる。子どものうたを歌うための歌唱法が身につく。幼児音楽メロディを知り、実践へとつなげる。</p> <p>テーマ 音楽を通して子どもを保育する上で必要な音楽理論、音楽技術の習得</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>子どもの音楽活動を展開するために保育者に必要な歌唱法を通して、音楽を豊かに表現するための想像力と想像力、音楽コミュニケーション力を養う。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 園生活における音楽場面 保育者と子どもの音楽表現活動、季節の行事、年齢別の指導事例 | | | | | | | 授業で学んだことを復習すること | |
| 2 | 音楽の理論(1) ト音記号、ヘ音記号、大譜表、音符と休符、拍子記号 | | | | | | | " | |
| 3 | 音楽の理論(2) 音の強弱、速度、奏法 | | | | | | | " | |
| 4 | 音楽の理論(3) 省略記号、コードネーム | | | | | | | " | |
| 5 | 保育者に求められる歌唱法(1) ソロヴォーカル、弾き歌い | | | | | | | 授業で学んだことを復習すること。ヴォイストレーニングは毎日行うことが望ましい。 | |
| 6 | 保育者に求められる歌唱法(2) 幼児にふさわしい歌い方 | | | | | | | " | |
| 7 | 保育者に求められる歌唱法(3) 呼吸、発音、発声 | | | | | | | " | |
| 8 | 歌唱・声を中心とした表現活動(1) わらべうた、遊びうた | | | | | | | " | |
| 9 | 歌唱・声を中心とした表現活動(2) 唱歌・童謡 | | | | | | | " | |
| 10 | 歌唱・声を中心とした表現活動(3) ポピュラー曲 | | | | | | | " | |
| 11 | 子どものうたと身体表現 グループワーク | | | | | | | " | |
| 12 | 幼児音楽教育メソッド(1) ダルクローズのリミックス | | | | | | | " | |
| 13 | 幼児音楽教育メソッド(2) オルフ・アプローチ | | | | | | | " | |
| 14 | 幼児音楽教育メソッド(3) コダーイ・メソッド | | | | | | | " | |
| 15 | まとめと振り返り | | | | | | | " | |
| テキスト | 「幼児のための音楽教育」教育芸術社 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 授業中、適宜資料を配布する | | | | | | | | |
| 評価方法 | 小テストを実施する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | ファイルを準備し、授業で配布する資料を保管すること | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|---|----|-------|
| 科目番号 | 2230 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 福士亜友子 |
| 科目名 | 子どもと音楽 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 子どもの曲を演奏するための楽器の奏法が身につく。前期から学んだ歌唱、奏法、表現法を通してグループで劇遊びを行う。 テーマ 音楽を通して子どもを保育する上で必要な音楽理論、音楽技術の習得</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>子どもの音楽活動を展開するために保育者に必要な器楽奏法を通して、音楽を豊かに表現するための想像力と想像力、音楽コミュニケーション力を養う。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | | |
| 1 | 保育者に求められる歌唱法(4) 呼吸、発音、発声の復習 | | | | | | 授業で学んだことを復習すること。ヴォイストレーニングは毎日行うことが望ましい。 | | |
| 2 | 保育者に求められる歌唱法(5) 演技の基礎(うたに五感と気持ちを込める)、滑舌練習 | | | | | | " | | |
| 3 | 保育者に求められる歌唱法(6) ソロヴォーカル、アカペラ・ヴォーカル | | | | | | " | | |
| 4 | 音合わせ遊び(1) ウッドブロック、トライアングル、木琴 | | | | | | " | | |
| 5 | 音合わせ遊び(2) すず、カステネット、タン布林 | | | | | | " | | |
| 6 | 音合わせ遊び(3) 鍵盤ハーモニカ、小太鼓、大太鼓ほか | | | | | | " | | |
| 7 | リズム遊び、歌あそび(1) | | | | | | " | | |
| 8 | リズム遊び、歌あそび(2) | | | | | | " | | |
| 9 | 劇的表現(1) 絵本を活用した劇遊び | | | | | | " | | |
| 10 | 劇的表現(2) 赤ちゃん絵本を活用した劇遊び | | | | | | " | | |
| 11 | 劇的表現(3) グループワーク | | | | | | " | | |
| 12 | ミュージカル鑑賞 | | | | | | " | | |
| 13 | ミュージックベルの遊び(1) ミュージックベルの特徴と奏法 | | | | | | " | | |
| 14 | ミュージックベルの遊び(2) 季節のうた、ポピュラー曲 | | | | | | " | | |
| 15 | まとめと振り返り | | | | | | " | | |
| テキスト | 「幼児のための音楽教育」教育芸術社 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 授業中、適宜資料を配布する | | | | | | | | |
| 評価方法 | 小テスト(70%)、グループワーク(30%) | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | ファイルを準備し、授業で配布する資料を保管すること | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-----|------|-------|------|-------------|-------------------------------------|-------|
| 科目番号 | 2232 | 単位 | 2 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 福士亜友子 |
| 科目名 | 表現 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 領域「表現」の内容を理解する。子どもの「豊かな感性や表現する力」を育てるために、保育者としての支援を考える。保育者自身の表現の重要性について学ぶ。</p> <p>テーマ 子どもの発達と造形表現、音楽表現、劇的表現の理解と考察</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>子どもとあそび、表現活動について発達過程に則して理解する。表現の意義・内容・方法などについて理論的な考察を行う。また、実践としても活かせるように、保育の現場における表現活動について地域も視野に入れて考える。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | |
| 1 | 領域「表現」 幼稚園教育要領、保育所保育指針における乳幼児の表現活動を理解する | | | | | | | 事前にテキスト等を読み、内容を深めておく。授業後は、ノート整理をする。 | |
| 2 | "感性"と"表現"についての考察 喜怒哀楽、五感、「オモてアラス」技術を理解し、子どもの気持ちに共感する | | | | | | | " | |
| 3 | "遊び"についての考察 幼児期の遊びを思い出す、幼児の遊びを観察する | | | | | | | " | |
| 4 | 子どもの発達と造形表現活動(1) 幼児期の描画表現、なぐり描きから芸術へ至るまでを理解する | | | | | | | " | |
| 5 | 子どもの発達と造形表現活動(2) 絵画、立体表現の基本的な事柄(素材、道具、環境づくり)を理解する | | | | | | | " | |
| 6 | 子どもの発達と造形表現活動(3) 地域で行われるアートプロジェクト、造形ワークショップの事例を集める | | | | | | | " | |
| 7 | 対話型鑑賞 鑑賞活動の意味を理解し、自身の鑑賞力を高める | | | | | | | " | |
| 8 | 子どもの文化と表現活動 玩具、絵本、紙芝居、人形劇、テレビ番組などについて、表現の視点から理解する | | | | | | | " | |
| 9 | 子どもの発達と劇的表現(1) 乳幼児の運動機能と言語の獲得の過程を理解する | | | | | | | " | |
| 10 | 子どもの発達と劇的表現(2) 個としての遊びの段階から、役割遊び、ごっこ遊びへの過程を理解する | | | | | | | " | |
| 11 | 子どもの発達と劇的表現(3) 日常的な劇遊びと行事などにおける劇的な表現活動を楽しむ | | | | | | | " | |
| 12 | 子どもの発達と音楽表現活動(1) 乳幼児の音楽認知発達を理解する | | | | | | | " | |
| 13 | 子どもの発達と音楽表現活動(2) 「歌う」ということ、乳幼児の声域を理解する | | | | | | | " | |
| 14 | 子どもの発達と音楽表現活動(3) 保育現場での音楽環境(歌、合奏、リズム遊びなど)を考察する | | | | | | | " | |
| 15 | まとめ 保育表現について総合的に理解する | | | | | | | " | |
| テキスト | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、そのほか開講後に指示する | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 授業中、適宜資料を配布する | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験80%、提出物20% | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 毎回出席し授業記録をとること | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|-----|---|-------|----|---------|----------------------------|-------------|-------|--|--|
| 科目番号 | 2234 | | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 佐々木典彰 | | |
| 科目名 | 保育者論 | | | | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 栄養教諭 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | | | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 保育者とはどのような存在であるべきかを簡潔に述べるができる。</p> <p>テーマ 保育者とは何者かを考える。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育者には何が求められているかの基礎を、映像や心理学の知見など、さまざまな教材にふれながら学び、自主学習は、授業後、次回小テストのための復習を行い、必要に応じて、質問や意見を授業HPに投稿する。</p> | | | | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習 (授業後) | | | | |
| 1 | 保育者のイメージ | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 2 | 保育者の仕事 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 3 | 保育者の専門性 共感力 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 4 | 保育者の専門性 言葉がけ | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 5 | 保育者のわざ 絵本 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 6 | 保育者のわざ 教材 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 7 | 保育者の子ども評価 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 8 | 保育者のリーダーシップ | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 9 | 保育者の連携 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 10 | 保育者の倫理 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 11 | 保育者と労働 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 12 | 保育者のストレス | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 13 | 保育者の成長 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 14 | 保育者の理想像 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | | | | |
| 15 | 振り返りとまとめ | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 毎回プリント配布 | | | | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 随時紹介 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 小テスト(42%)およびレポート課題(58%)の合計点(100点満点)を最終成績とする。 | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 小テストは、欠席・遅刻した場合、原則受けられない。 (特別の理由がある場合は相談すること) | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-----|------|-------|------|-------------|--|-------|
| 科目番号 | 2235 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 江莉川淳子 |
| 科目名 | 保育の計画と評価 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイエンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 保育課程・教育課程、指導計画は保育実践において柱となっていることを理解し、子どもにふさわしい生活が展開されるような保育計画について考えていく。</p> <p>テーマ 保育課程・教育課程や指導計画の持つ意味を捉え、この計画が子ども達の発達にどのように関わっていくのかを理解する。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育計画についての基本や実際の保育における計画、実践、記録、省察・評価、改善の過程の大切さを学び、保育課程や指導計画の作成について具体的に理解する。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 保育計画の基本 カリキュラムの基礎、保育における計画と評価の意義について捉える。 | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 2 | 保育計画の基本 教育課程・保育課程、計画～評価・改善（PDCAサイクル）の過程について学ぶ | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 3 | 指導計画作成の意義 幼稚園教育の基本を捉え、教育課程と指導計画の実際について学ぶ | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 4 | 指導計画作成の意義 幼稚園での実際の指導計画（教育課程～日案）を見比べ、それぞれの指導計画の書き方や関係性を理解する。 | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 5 | 指導計画作成の意義 保育所保育における基本を捉え、保育課程と指導計画の実際について学ぶ | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 6 | 指導計画作成の意義 保育所での実際の指導計画（保育課程～日案）を見比べ、それぞれの指導計画の書き方や関係性を理解する。 | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 7 | 保育計画の実際 指導計画の作成方法（「子どもの姿」「ねらい」）について学ぶ | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 8 | 保育計画の実際 指導計画の作成方法（「内容」「環境構成」「保育者の援助」）について学ぶ | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、分かったことをまとめる。 | |
| 9 | 部分案の作成 子どもの発達の特徴を捉え、子ども達の姿から部分案（運動遊び）を作成する。 | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、部分案を完成させる。 | |
| 10 | 部分案の作成 子どもの発達の特徴を捉え、子ども達の姿から部分案（帰りのつどい前の絵本の読み聞かせ）を作成する。 | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、部分案を完成させる。 | |
| 11 | 部分案の作成 子どもの発達の特徴を捉え、子ども達の姿の様子から部分案（製作活動）を作成する。 | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後復習を行い、部分案を完成させる。 | |
| 12 | 週案作成 3歳児5月・6月・7月の月案を基に週案（3歳児6月第4週）を作成する。 | | | | | | | 事前に3歳児の月案に目を通してくる。講義後は週案を作成する。 | |
| 13 | 週案作成 週案（3歳児6月第4週）を完成させる。 | | | | | | | 事前に4歳児の月案に目を通してくる。講義後は週案を完成させる。 | |
| 14 | 週案作成 作成した週案についてそれぞれグループ討議を行う | | | | | | | 事前に5歳児の月案に目を通してくる。講義後は講義内で行ったグループ討議を基に、週案を再検討する。 | |
| 15 | 小学校との連携 指導要領・保育要録、評価について学ぶ | | | | | | | テキストを事前に読んでくる。講義後これまでの復習を行い指導計画の重要性について理解する。 | |
| テキスト | 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正著「教育・保育課程論～書いて学べる指導計画～」明文書林 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | そのつど資料を作成して配布する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 提出された部分案（20%）・週案（30%）と定期試験（50%）の総合評価とする。 試験は定期試験期間内に実施する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 自分でも様々な指導計画を調べ、多方向から保育における計画の意味を考えていけるようにすることが望ましい。 | | | | | | | | |

平成3年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|---|----|------------|------|-------------------|------|------------------------------------|----|------|
| 科目番号 | 2236 | 単位 | 1 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 松宮ゆり |
| 科目名 | 乳児保育(2) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 保育士 | | 医療秘書 幼稚園 教諭 | | フードサイ エンティスト ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | 到達目標 ・3歳未満児の発育、発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針と養護及び教育の一体性を踏まえ、生活や遊びと保育の方法そして、環境について具体的に理解する。・乳児保育における配テーマ 子どもたちの健やかな未来のために、乳児保育の大切さを認識する。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 3歳未満児の保育をする上で必要な知識や技能を学び、多様な保育が求められる中で、外国籍の子どもやアレルギーのある子ども、障害がある子ども、家庭の事情へのそれぞれの対応について、災害への備えについても学ぶ。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習(授業前・授業後) | | |
| 1 | 第1章 6か月未満の子どもの育ちと保育内容 1・マザリ-ズの効果 0~3か月・4~6か月未満の子どもの育ちと保育 | | | | | | 新生児期にみられる反射行動 マザリ-ズの効果 | | |
| 2 | 第2章 6か月未満の子どもの育ちと保育内容 2 睡眠・栄養摂取・母乳栄養・排泄・衣服や着替え・安全・遊び | | | | | | 布おむつと紙おむつの違い | | |
| 3 | 第3章 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容 1 6~9か月・10か月~1歳未満の子どもの育ちと保育 | | | | | | 0歳児の保育で大切にしたい視点 幼児教育の資質・能力の3つの柱 | | |
| 4 | 第4章 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容 2 睡眠と排泄・離乳の開始・衣服と着替え・安全・遊び | | | | | | 離乳・衣服枚数の目安 | | |
| 5 | 第5章 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容 1 1歳~1歳6か月未満・1歳6か月~2歳未満の子どもの育ちと保育 | | | | | | 自我の芽生え 二語文 | | |
| 6 | 第6章 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容 2 睡眠・食事・排泄・トレーニング・着替え・安全・遊び | | | | | | 遊び食べ かみつきへの対応 | | |
| 7 | 第7章 2歳~3歳の子どもの育ちと保育内容 1 2歳~2歳6か月・2歳6か月~3歳未満児・3歳の子どもの育ちと保育 | | | | | | 第一・二質問期 自我の拡大 | | |
| 8 | 第8章 2歳~3歳の子どもの育ちと保育内容 2 睡眠・食事・排泄・着替え・安全・遊び | | | | | | 睡眠時間の変化 偏食と小食 | | |
| 9 | 第9章 乳児保育における指導計画 保育の計画とは何か・指導計画の特徴・短期・長期の計画 | | | | | | 個別指導計画 | | |
| 10 | 第10章 観察・記録及び自己評価 観察・記録のポイント・自己評価 | | | | | | PDCAサイクルとは | | |
| 11 | 第11章 子どもの生活や遊びが豊かになる保育環境 1 子どもに魅力ある環境とは・保育園で使われているもの等 | | | | | | 乳児に適した絵本と紙芝居 | | |
| 12 | 第12章 子どもの生活や遊びが豊かになる保育環境 2- 遊びのアイデア・遊びの導入、持続 | | | | | | 適切な環境づくり | | |
| 13 | 第13章 子どもの生活や遊びが豊かになる保育環境 2- 絵本・紙芝居の読み聞かせ | | | | | | 絵本・紙芝居の読み聞かせ | | |
| 14 | 第14章 集団での生活における配慮 集団のなかの「一人ひとり」を大事にする・個に振り回されない「集団」を大事にする | | | | | | 生活における配慮について考える | | |
| 15 | 第15章 環境の変化や移行に対する配慮 新しい部屋、保育者、友達に慣れる、進級のプレッシャーを与えない配慮等 | | | | | | 保育者間の引き継ぎ・共有について | | |
| テキスト | 『乳児保育演習ブック』、松本 峰雄 監修・池田りな・才郷 真弓・土屋 由・堀 科 著、ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 『保育所保育指針』<平成20年告示>・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験(80%)・授業内提出物及び活動(20%)を総合評価。試験は定期試験期間内に実施する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 新聞等の育児に関する記事に感心を持ち、情報収集し積極的に取り組む。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------|---|----|-----|------|-----------|------|-----------------|----|---------------|
| 科目番号 | 2240 | 単位 | 2 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 集中 | 担当 | 保育士課程委員会 |
| 科目名 | 保育実習(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | 到達目標 授業で学んだ知識や技能を基礎とし、観察・参加実習を通して 保育所の役割と機能の具 体的理解 観察や子どもとのかかわりを通しての子ども理解 保育内容・保育環境の理解 保育の計 画、観察、記録及び自己評価等についての具体的理解 保育士の業務内容や職業倫理などの具体的理 テーマ 子ども理解を深めながら、保育所の機能や保育士の役割について具体的に学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育現場において、授業で学んだ専門知識や技能を総合的に実践し、子どもとのふれあいを通じて保育 士の職務を体験的に学習する。 | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） |
| 1 | 【保育所実習】2単位 | | | | | | | | |
| 2 | 実習期間：平成31年9月18日～9月26日（7日間） | | | | | | | | |
| 3 | 実習施設：履修者の希望を基に実習先を決定する。 | | | | | | | | |
| 4 | 実習形態： 観察実習 参加実習を中心に実施する。 | | | | | | | | |
| 5 | 観察実習 各クラスの見学・観察、園舎内・園庭の観察 | | | | | | | | |
| 6 | 参加実習 配属クラスでの保育参加 | | | | | | | | |
| 7 | 実習内容 | | | | | | | | |
| 8 | 1．保育所の役割と機能 | | | | | | | | |
| 9 | （1）保育所の生活と一日の流れ（2）保育所保育指針の理解と保育の展 | | | | | | | | |
| 10 | 2．子ども理解 | | | | | | | | |
| 11 | （1）子どもの観察とその記録による理解（2）子どもの発達過程の理解 | | | | | | | | |
| 12 | （3）子どもへの援助やかかわり | | | | | | | | |
| 13 | 3．保育内容・保育環境 | | | | | | | | |
| 14 | （1）保育の計画に基づく保育内容（2）子どもの発達過程に応じた保育内容 | | | | | | | | |
| 15 | （3）子どもの生活や遊びと保育環境（4）子どもの健康と安全 | | | | | | | | |
| 16 | 4．保育の計画・観察・記録 | | | | | | | | |
| 17 | （1）保育課程と指導計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 | | | | | | | | |
| 18 | 5．専門職としての保育士の役割と職業倫理 | | | | | | | | |
| 19 | （1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 | | | | | | | | |
| 20 | 実習期間中に保育士課程委員会の教員が実習先を訪問し、学生との面談を通して 指導・助言をする。 | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | |
| テキスト | 「幼稚園・保育所実習の手引」 東北女子短期大学 教職課程委員会・保育士課程委員会編 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じて資料を配付する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 実習先からの評価（60%）実習日誌の内容評価（40%） | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 実習の意義・目的・内容を十分に理解したうえで、事前準備をしっかり整えて実習に臨むこと。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|----|---------------|
| 科目番号 | 2240 | 単位 | 2 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 集中 | 担当 | 保育士課程委員会 |
| 科目名 | 保育実習(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 授業で学んだ知識や技能を基礎とし、福祉施設の現場において 福祉施設(種別)の機能や役割 利用者の状況把握 福祉施設の一日の流れ等を体験を通して学ぶ。</p> <p>テーマ 福祉施設の機能や役割を理解しながら、体験を通じて支援のあり方を学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>児童福祉施設の現場において、授業で学んだ専門知識や技能を総合的に実践し、児童・利用者とのふれあいを通じて保育士の職務を体験的に学習する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | | 自主学习(授業前・授業後) |
| 1 | <p>【施設実習】2単位</p> | | | | | | | | |
| 2 | <p>実習期間：2～3月(概ね10日間 90時間)</p> | | | | | | | | |
| 3 | <p>実習施設：履修者の希望を基に配属先を決定する。</p> | | | | | | | | |
| 4 | <p>実習形態：参加実習を中心に実施する。</p> | | | | | | | | |
| 5 | <p>実習内容</p> | | | | | | | | |
| 6 | <p>1. 施設の役割と機能</p> | | | | | | | | |
| 7 | <p>(1) 施設の生活と一日の流れ(2) 施設の役割と機能</p> | | | | | | | | |
| 8 | <p>2. 子ども理解</p> | | | | | | | | |
| 9 | <p>(1) 子どもの観察とその記録(2) 個々の状態に応じた援助やかかわり</p> | | | | | | | | |
| 10 | <p>3. 養護内容・生活環境</p> | | | | | | | | |
| 11 | <p>(1) 計画に基づく活動や援助(2) 子どもの心身の状態に応じた対応</p> | | | | | | | | |
| 12 | <p>(3) 子どもの活動と生活の環境(4) 健康管理、安全対策の理解</p> | | | | | | | | |
| 13 | <p>4. 計画と記録</p> | | | | | | | | |
| 14 | <p>(1) 支援計画の理解と活用(2) 記録に基づく省察・自己評価</p> | | | | | | | | |
| 15 | <p>5. 専門職としての保育士の役割と倫理</p> | | | | | | | | |
| 16 | <p>(1) 保育士の業務内容(2) 職員間の役割分担や連携(3) 保育士の役割と職業倫理</p> | | | | | | | | |
| 17 | <p>実習期間中に保育士課程委員会の教員が実習先を訪問し、学生との面談を通して指導・助言をする。</p> | | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | |
| テキスト | <p>「幼稚園・保育所実習の手引」 東北女子短期大学 教職課程委員会・保育士課程委員会編</p> | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | <p>必要に応じて資料を配付する。</p> | | | | | | | | |
| 評価方法 | <p>実習先からの評価(60%) 実習日誌の内容評価(40%)</p> | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | <p>実習の意義・目的・内容を十分に理解したうえで、事前準備をしっかりと整えて実習に臨むこと。</p> | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|---|----|-----|------|-----------|------|-----------------|---------------|-------|
| 科目番号 | 2241 | 単位 | 2 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年前期 | 担当 | 江荊川淳子 |
| 科目名 | 保育実習指導(1) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 保育実習の意義・目的・内容・方法について理解する。実習記録や指導案作成の意義・方法を理解し、実際に作成することができる。実習施設の概要について説明できる。</p> <p>テーマ 保育所をはじめとする福祉施設の理解と保育士の役割の考察～保育実習の準備とふり回り</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>・保育実習を進めていくために、保育所実習及び施設実習の意義・目的・内容・方法について理解する。 ・事前指導として保育実習の知識や技術を習得するための講義と演習を行う。 ・事後指導として実習のふり回り、自身の課題と改善点を明確に評価する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | 実習の意義・目的・内容・方法 実習の意義・目的・内容・方法とあわせて本学の実習概要を説明し、実習を迎える準備をする。 | | | | | | | | |
| 2 | 実習の意義・目的・内容・方法 実習の具体的な内容や段階を詳しく説明し、実習に対する意識を明確にする。 | | | | | | | | |
| 3 | 保育所実習 保育所の意義・役割について説明する。 | | | | | | | | |
| 4 | 保育所実習 保育所と幼稚園、認定子ども園のそれぞれの意義・役割を説明する。 | | | | | | | | |
| 5 | 保育所実習 保育所の一日の生活（デイリー・プログラム）や保育士の役割・仕事内容を説明する。 | | | | | | | | |
| 6 | 施設実習 施設の意義・役割について理解する。 | | | | | | | | |
| 7 | 施設実習 施設実習における役割を理解した上で、個々の実習配属先を具体的に検討する。 | | | | | | | | |
| 8 | 実習に必要な書類の作成について説明する。 | | | | | | | | |
| 9 | 実習生としての心構え 子ども理解の重要性を認識させ、その目的と方法を説明する。 | | | | | | | | |
| 10 | 実習生としての心構え 実習先の特色を理解し、実習に向けての具体的な準備と課題意識を明確にする。 | | | | | | | | |
| 11 | 観察方法と実習記録 実習での観察方法やポイントを具体的に説明する。 | | | | | | | | |
| 12 | 観察方法と実習記録 実習記録の意義を踏まえ、記録内容や方法を説明する。 | | | | | | | | |
| 13 | 観察方法と実習記録 実習記録の記述に関する留意事項を挙げ、実際の記録に適用できるよう解説する。 | | | | | | | | |
| 14 | 実習中に必要な留意点を確認する。 | | | | | | | | |
| 15 | 実習をふり回り、自己評価および課題を明確にする必要性を認識させる。 | | | | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じて資料を配付する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 提出物（ノート・レポート課題等）を総合して評価する。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 他の講義内容と関連させながら、実習に対する知識と理解を深めること。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|-------------------|------|
| 科目番号 | 2244 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 島内智秋 |
| 科目名 | 保育原理(2) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の歴史と類型、保育内容の変遷を学び、現在の保育の成り立ちを理解する。 ・保育課程・指導計画の重要性や性質を理解し、指導計画案作成の基礎を身につける。 <p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様化する保育ニーズと保育者の任務を知り、質の向上を図る重要性を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>第一に保育の視点や創造性を培うために保育史を辿り、保育の思想の源流として西欧諸国の先駆者の思想や偉業にふれ、我が国の保育史についても言及する。第二に保育実践に必要とされる保育課程や保育の記録について学習する。第三に多様な保育ニーズから、子どもにとって望ましい保育環境や保育士の役割について学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习（授業前・授業後） | |
| 1 | オリエンテーション・保育の本質、保育の場についての理解 | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 2 | 保育の歴史 諸外国の保育の思想と歴史（10章 保育の思想史） | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 3 | 保育の歴史 日本の保育の思想と歴史（11章 日本の保育の制度史） | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 4 | 保育の歴史 日本の保育施設の歴史（12章 日本の保育の制度史） | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 5 | 保育の歴史 日本の保育内容の変遷（戦前～戦中～戦後～現在） | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 6 | 保育所保育の原理（13章 保育における地域連携） | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 7 | 保育における子ども理解・遊びを通して総合的に行う保育 | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 8 | 保育の計画及び評価・保育課程の編成と指導計画作成の基本理解 | | | | | | | 事前に教科書を一読しておくこと | |
| 9 | 短期指導計画の理解・日案作成の手順と項目の理解 | | | | | | | 各自のクラス活動案を提出 | |
| 10 | 指導案を持ち寄り、グループ内で一人一人の指導計画について話し合う | | | | | | | 活動案から内容説明できるようにする | |
| 11 | 模擬保育を実施し、指導計画との繋がりを体験的に理解する 評価・反省をする | | | | | | | 模擬保育からの学びを整理する | |
| 12 | 模擬保育を実施し、指導計画との繋がりを体験的に理解する 評価・反省をする | | | | | | | 模擬保育からの学びを整理する | |
| 13 | 模擬保育から良い点や工夫が必要な点を検討する 指導計画の改善 | | | | | | | 指導案を改善する | |
| 14 | 改善した指導案から保育実践に繋がる細案の理解（14章保護者支援における保育士の役割） | | | | | | | 自身の指導案から細案の検討をする | |
| 15 | 保育行政・保育制度や多様な保育ニーズについての理解（15章保育職務の全体像） | | | | | | | 改善した指導案を提出する | |
| テキスト | 『なぜからはじめる保育原理』（保育原理（1）から引き続き使用） 『0～5歳児指導計画の書き方がよくわかる本』ひかりのくに | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 『保育の友 私たちの指導計画』全国社会福祉協議会 『保育原理』民秋言・河野利津子編著 北大路書房 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 期末テスト(60%)・提出物(20%)・受講態度(20%)などの総合評価をする。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 実践に繋げるようにイメージしながら受講し積極的に質問すること。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|-----|------|-----------|------|-----------------|---------------------------------------|------|
| 科目番号 | 2245 | 単位 | 2 | 授業形態 | 講義 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 西 敏郎 |
| 科目名 | 子ども家庭福祉(2) | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 医療 | | フードサイ エンティスト | | |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標: 学生自身が児童家庭福祉を通じて、自ら考え、判断できる力の構築を目標としている。また保育に携わる者としての必要な知識、倫理観、保育観の修得を目指す。</p> <p>テーマ: 児童を取り巻く環境は日々変化している。その中で児童の位置付けや、時代と共に変化する児童家庭福祉問題について、過去・現在を比較し、理解を深める。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>身近な事例や各国の取り組みなどを資料に用いて、多角的に児童家庭福祉問題についてアプローチする。そこから時代とともに変化する児童の位置づけや社会的役割。さらに諸外国との比較によってわが国の児童家庭福祉観を考察する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学习 (授業前・授業後) | |
| 1 | 日本の子育て: 古来よりのわが国の「児童」観を解説する。 | | | | | | | 現在の児童福祉問題を調べておく | |
| 2 | 子ども子育て支援新制度 平成27年度より始まった「子ども子育て支援新制度」を解説する。 (認定こども園を中心に) | | | | | | | 確認の為の小テストを行う。 (幼稚園、保育所、認定こども園について) | |
| 3 | 子ども子育て支援新制度 平成27年度より始まった「子ども子育て支援新制度」を解説する。 (新支援制度の「号・号」認定と行政手続きを中心に) | | | | | | | | |
| 4 | 健全育成: 家庭環境、地域社会、子育ての概念・価値観は常に変化をしている。そこで、これからの健全育成について考察する。 | | | | | | | | |
| 5 | 乳児と母親 : H・F・Harlowの「子猿の実験」を解説し、健全育成に必要なものは何かを考察する。 | | | | | | | | |
| 6 | 乳児と母親 : 「遊びの展開」におけるJ・Bowlbyの理論を解説し、健全育成に必要なものは何かを考察する。 | | | | | | | | |
| 7 | 児童家庭福祉の歴史 : 児童家庭福祉の歴史を解説する(近代以前を中心に)。 | | | | | | | | |
| 8 | 児童家庭福祉の歴史 : 児童家庭福祉の歴史を解説する(近代以後を中心に)。 | | | | | | | | |
| 9 | 児童家庭福祉の歴史 : 児童家庭福祉の歴史を解説する(戦後を中心に)。 | | | | | | | レポート提出(「児童家庭福祉の変遷」) | |
| 10 | 児童家庭福祉と保育 : 児童福祉法第39条に規定されている児童福祉施設である保育所について、その理念や倫理観について解説する。 | | | | | | | | |
| 11 | 児童家庭福祉と保育 : 児童福祉法第39条に規定されている児童福祉施設である保育所について、その機能や役割について解説する。 | | | | | | | | |
| 12 | 少年非行: 「非行」という言葉の定義と、児童福祉法、少年法、審判制度などを解説する。 | | | | | | | | |
| 13 | 児童をとりまく社会問題 : 児童をとりまく社会問題について考察する(日本を中心に)。 | | | | | | | | |
| 14 | 児童をとりまく社会問題 : 児童をとりまく社会問題について考察する(欧米を中心に)。 | | | | | | | レポート提出 (「現代の児童家庭福祉問題について」) | |
| 15 | 総括: いままでの講義内容をふまえ、時事問題も含めて総括をする。 | | | | | | | 確認の為の小テストを行う。 | |
| テキスト | 特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 特に使用しない。図書館等で関連図書を参考にして頂きたい。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 試験(90%)・レポート課題(10%) 試験は定期試験期間内に実施する | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 常に学ぶ姿勢を忘れず、講義内容に対して積極的に疑問を持ち、自らの理論を打ち立てよとする姿勢を望む。 | | | | | | | | |

平成30年度

| | | | | | | | | | |
|-----------|---|----|-----|------|-------|------|---------|----------------------------|-------------|
| 科目番号 | 2247 | 単位 | 2 | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 1年後期 | 担当 | 佐々木典彰 |
| 科目名 | 言葉 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 栄養教諭 | | 医療 | | フードサイエンティスト |
| | | | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | ベビーシッター | | |
| 到達目標及びテーマ | <p>到達目標 子どもの発達における言葉の重要性を認識し、保育現場での具体的な工夫や配慮を述べることができる。</p> <p>テーマ 子どもの言葉の基礎を学び、2年次「言葉の指導法」につなげる。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>幼稚園教育要領をはじめ、保育者の言葉に関する研究等さまざまな資料をもとに、実践的な言葉がけについて学ぶ。 自主学習は、授業後、次回小テストのための復習を行い、必要に応じて、質問や意見を授業HPに投稿する。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | | 自主学習(授業後) | |
| 1 | 「言葉」とは | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 2 | 言葉の発達 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 3 | 子どもの言葉の特徴 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 4 | 幼稚園教育要領における「言葉」とは | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 5 | 子どもに伝わる言葉と伝わらない言葉 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 6 | 子どもにプラスの言葉とマイナスの言葉 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 7 | 非言語的コミュニケーション | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 8 | 子どもの言葉を引き出す言葉がけ(インリアルアプローチ) | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 9 | ベテラン保育者ならではの言葉がけ | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 10 | 言葉がけのひとつ工夫(オノマトペ) | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 11 | この場面であなたならどのような言葉がけをする？ | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 12 | 保護者支援のための言葉(情報機器の活用を含む) | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 13 | 保育者間の良好な人間関係のための言葉 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 14 | 親子間の言葉の現状と課題 | | | | | | | ・次回小テストのための復習 ・質問や意見の投稿 | |
| 15 | 振り返りとまとめ | | | | | | | | |
| テキスト | 毎回プリント配布 | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 幼稚園教育要領(平成29年告示 文部科学省) | | | | | | | | |
| 評価方法 | 毎回の小テスト(42%)およびレポート課題(58%)の合計点(100点満点)とする。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 小テストは、欠席・遅刻した場合、原則受けられない。 (特別の理由がある場合はなるべく事前に相談すること) | | | | | | | | |

平成3年度

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----------------------------|-----|------|-----------|--|---------------|----|-----------------|
| 科目番号 | 2248 | 単位 | (2) | 授業形態 | 演習 | 開講時期 | 2年前期 | 担当 | 神 美香 |
| 科目名 | 子どもと造形 | | | | | | | | |
| 課程 | 卒業必修 | | 栄養士 | | 栄養教諭 | | 医療秘書 | | フードサイ エンティスト |
| | | | 保育士 | | 幼稚園 教諭 | | ベビー シッター | | |
| 到達目標 及びテーマ | <p>到達目標 幼児教育の意義を理解し、基礎的な表現方法と技術を習得する。</p> <p>テーマ 幼児の心に寄り添い、興味と楽しさを引き出し、のびのびとした創造力を育てる。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>幼児の発達段階に適した表現方法と技術を習得する。造形教育と絵本の関わりを体験し、幼児とのコミュニケーション方法を学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 回 | 授 業 計 画 | | | | | | 自主学習（授業前・授業後） | | |
| 1 | 3歳児の為の絵画 | 天気や自然を手で描く、ローラーで描く | | | | クレヨン、水彩絵の具一式 | | | |
| 2 | 4～5歳児の為の絵画 | エリックカールの技法で描く動物制作 | | | | 「動物」をテーマした絵本を持参し、読み聞かせの練習をしておく。水彩絵の具一式、水のり、はさみ | | | |
| 3 | | エリックカールの技法で描く動物制作 | | | | 上に同じ | | | |
| 4 | 3歳児の為の造形遊び | 葉っぱや種、自然のコラージュ | | | | 自然をテーマとした絵本を持参する。木工用ボンド、クレヨン、水彩絵の具一式、はさみ | | | |
| 5 | 4歳時の為の造形遊び | 動物のコラージュ(紙をちぎる) | | | | 「動物」をテーマした絵本を持参し、読み聞かせの練習をしておく。水のり、はさみ、鉛筆 | | | |
| 6 | 5歳時の為の造形遊び | 鳥のコラージュ(紙を裂く) | | | | 「鳥」をテーマした絵本を持参し、読み聞かせの練習をしておく。水のり、鉛筆、はさみ | | | |
| 7 | 3歳児の為の粘土遊び | 虫、さかななど幼児の好きなワールドの制作(立体) | | | | 水彩絵の具一式、クレヨン、木工用ボンド、カッター、はさみ | | | |
| 8 | 5歳児の為の造形遊び | 季節のカレンダー制作 | | | | 水彩絵の具一式、クレヨン、木工用ボンド、カッター、はさみ | | | |
| 9 | 4～5歳児の為の造形遊び | クリスマスワールドをグループで制作 | | | | 水彩絵の具一式、クレヨン、木工用ボンド、カッター、はさみ | | | |
| 10 | 3歳児の為の版画 | スチレンボード版画 | | | | ボールペン、タオル、エプロン | | | |
| 11 | 4～5歳児の為の版画 | 紙版画で年賀状制作 | | | | はさみ、のり、エプロン、タオル | | | |
| 12 | 5歳児の為の版画 | 紙版画 版の制作(紙を切る、ちぎる、重ねかたの工夫) | | | | はさみ、のり | | | |
| 13 | | を決め、刷り方、用具を理解して刷る | | | | エプロン、新聞紙一日分、タオル | | | |
| 14 | 4～5歳児の為の絵画 | お話しの世界を立体で表す | | | | 水彩絵の具を持参する。絵の具一式、はさみ、カッター | | | |
| 15 | | 話しの世界を立体で表す | | | | 上に同じ | | | |
| テキスト | なし | | | | | | | | |
| 参考書・資料等 | 必要に応じて、参考資料の提示、プリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 提出物(70%)受講態度(20%)レポート(10%) | | | | | | | | |
| 履修上の注意等 | 10回課題の提出があります。速やかに作業できるように、道具をそろえておくことが望ましい。衣服が汚れる場合もあるので、トレーニングウェア、エプロン着用での受講可。 | | | | | | | | |